

第42回全国修学旅行研究大会

報告書

『学びの集大成を図る修学旅行』

— より良い修学旅行を目指して —



【実践事例発表】
「中学生のシンガポール修学旅行」



【対 談】
「安全・安心の修学旅行を目指して
— 食物アレルギー対応の情報共有 —」

2025（令和7）年7月23日（水）

九段会館テラス 2階 Banquet Hall「鳳凰」

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

主催者挨拶	1
-------	---

岩瀬 正司 公益財団法人 全国修学旅行研究協会 理事長

来賓挨拶	3
------	---

千々岩 良英 氏 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課長

根来 恭子 氏 観光庁 参事官（旅行振興）

賛助会員代表挨拶

石原 栄二 氏 近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員 教育旅行事業部長

■ 全修協報告	9
---------	---

『全国修学旅行実施状況調査』

—2023（令和5）年度 全国公私立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査—

石原 輝紀 公益財団法人 全国修学旅行研究協会 調査研究部長

■ 実践事例発表	21
----------	----

『中学生のシンガポール修学旅行』

○発表者

上原 良枝 氏 港区立三田中学校 校長

■ 対 談	42
-------	----

『安全・安心の修学旅行を目指して —食物アレルギー対応の情報共有—』

○登壇者

杉原 光信 氏 ホテル杉長 代表取締役社長

○聞き手

岡田 俊二 公益財団法人 全国修学旅行研究協会 常務理事

【主催者挨拶】



公益財団法人 全国修学旅行研究協会

理事長 岩瀬 正司

皆様、こんにちは。

只今ご紹介いただきました、公益財団法人 全国修学旅行研究協会の理事長 岩瀬正司でございます。

本日は公私ともご多用の中、また炎暑の中、多数の皆様方に、第42回全国修学旅行研究大会にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

さらに、ご来賓の

文部科学省初等中等教育局 児童生徒課長

千々岩 良英（ちぢいわ りょうえい） 様

観光庁 参事官 旅行振興

根来 恭子（ねごろ きょうこ） 様

そして私ども協会の事業に、ご理解・支援して下さっている賛助会員の皆様方を代表しまして

近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員 教育旅行事業部長

石原 栄二（いしはら えいじ） 様

には、ご多用にもかかわらず、直接この会場においでいただきお言葉をいただけることに、厚く御礼申し上げます。

本日の第42回全国修学旅行研究大会、この会場には120余名の方が、オンラインでも80名以上の方が参加しています。主催者として、このように盛大な大会が開催できますことは大きな喜びであり、同時に私ども協会の活動を支えてくださっている多くの皆様方に深く感謝申し上げます。

さて、コロナ禍も一段落して修学旅行も復活していますが、物価の高騰や各方面での人材不足という困難な課題が生じています。そのような現在の全国の公私立中学校・高等学校の状況をほぼ悉皆調査した結果を、本年も「全修協報告」として発表いたします。

また、東京都港区では区立中学校の全10校がシンガポールへの海外修学旅行を実施しています。全国的にも話題となり注目を集めている中学生の海外修学旅行の実際や経緯、課題などについてお話しいたします。

そして、修学旅行実施上の喫緊の課題の一つであり、昨年の本大会でも話題になった「食物アレルギー」への対応について、対談という形で皆様方と考えていきたいと思えます。わが国最大の修学旅行受け入れ地でもある京都で、日々修学旅行生たちと向き合っている宿泊施設の方からの報告と提案です。

今年は昭和100年、そして戦後80年という節目の年です。

昨年のこの大会でも申しあげましたが、私たちは、修学旅行は平和な時代や社会の象徴であると強く確信しています。「戦争を知らない子供たち」という歌がありますが、残念ながら「戦争しか知らない子供たち」が世界中にたくさんいます。

はるかウクライナやパレスチナの地に、そして全世界に、一刻も早く平和が訪れることを祈念して、開会のご挨拶といたします。



【来賓挨拶】



文部科学省 初等中等教育局

児童生徒課長 千々岩 良英 様

本日、第42回全国修学旅行研究大会が開催されるにあたり、一言、御挨拶申し上げます。

本大会の主催者である公益財団法人全国修学旅行研究協会におかれましては、長きにわたって修学旅行に関する調査、研究、情報提供など様々な活動を通じて、有意義な修学旅行の実現に向け取り組んでいただいておりますことに、深く敬意を表します。

また、本日御参加の皆様におかれましても、日頃より、修学旅行の充実に御尽力いただくとともに、文部科学行政へ御理解をいただいておりますことを心から感謝申し上げます。

近年、物価高騰の影響、関係事業者の人手不足、行先の混雑など、修学旅行の実施にかかる諸課題が顕在化し、各学校において、従前の修学旅行の内容そのままに実施することが難しくなりつつあることと考えております。

このような新たな背景を踏まえつつ、児童生徒にとって多くの学びがある修学旅行を実現するため、各学校において「方面の変更」「実施時期の見直し」「活動内容の見直し」などがなされ、創意工夫あふれる修学旅行が引き続き実施されているものと認識しています。

文部科学省としても、修学旅行の円滑な計画や実施に資するよう、観光庁や国土交通省とも連携させていただき、昨年12月、都道府県教育委員会等に対し、実施時期について柔軟な検討をお願いしたいという趣旨の通知を発出させていただきました。その際、通知と併せて、各都道府県の時期・曜日ごとの貸切バスや宿泊事業者の繁忙・閑散の情報を資料にまとめ、提供させていただいたところです。

本日御参加いただいている方の中にも、通知を踏まえ、その内容を踏まえた実施時期の見直しを御検討いただいている学校関係者の方や、通知の趣旨を踏まえた学校への御提案に御協力いただいている旅行者の方・関係事業者の方がいらっしゃるかと存じますが、この場をお借りして改めて、地域の実情等に鑑み、柔軟な実施時期の検討をいただきますよう、お願い申し上げます。

また、修学旅行の行先や具体の取組についても、教育的意義の観点から、多様な選択肢があろうと考えております。

例えば、東日本大震災被災地域における、震災の経験を踏まえた体験的な学習プログラムとして、被災地の現状を目で見て現地における復興までの過程を体感することや、当時の体験を語り部から聞くことによる防災・減災学習。民族共生象徴空間（ウポポイ）における、アイヌの伝統・文化の体験や、アイヌの歴史についての学習など有意義な経験になると考えており、これまで教育委員会等へ紹介してきたところです。

また、大阪・夢洲にて、「いのち輝く未来社会デザイン」をテーマとした日本国際博覧会（大阪・関西万博）が10月13日まで開催されております。私自身も会場に足を運ばせていただき、国の枠を超えた学びができることを実感させていただきました。今後、修学旅行等で万博へ来場予定の学校関係者の方もいらっしゃるかと存じますが、この大阪・関西万博も、次代を担う子供たちにとって、学びの多い機会となるものと考えております。

そして、その上で、先ほど申し上げました通り、従前のままの形での修学旅行の実施が難しくなりつつある一方で、修学旅行は子供たちにとって、かけがえのない貴重な思い出となる有意義な教育活動であり、その重要性は揺らぎないものであると考えております。学習指導要領を踏まえながら、探究型のプログラムを強化していこう、そういう声も多く学校から上がっていることも伺っております。文部科学省としても、子供たちの学びの充実に資するべく、今後も必要な情報提供などを行ってまいります。

修学旅行はその実施に当たり、多くの関係者の協力のもとに、実現されるものと考えております。本日も、学校関係者の方や、旅行業者の方はじめ、関係業界の方が御参加されていると伺っておりますが、このような関係者の皆様の間での連携・協議が極めて重要と考えております。

本日の、本研究大会の開催が、例年同様に、修学旅行の一層の充実、発展につながっていく、大変貴重な会となることを祈念するとともに、本日御参会の皆様の一層の御健勝、御活躍を祈念し、御挨拶とさせていただきます。



【来賓挨拶】



国土交通省 観光庁

参事官（旅行振興） 根来 恭子 様

本日、第42回全国修学旅行研究大会が盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、本日の研究大会の開催にご尽力されました全国修学旅行研究協会様をはじめとする本日ご出席の皆様方におかれましては、安全・安心な修学旅行の推進を通して、観光立国の実現にご尽力、ご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

昨年2024年の訪日外国人旅行者数、いわゆるインバウンドは過去最高の3,700万人でしたが、本年も1月から6月までの半年間で既に2,152万人と、過去最速で2,000万人を超え、非常に好調です。

一方で、日本人の海外旅行者数、いわゆるアウトバウンドは、昨年は1,300万人にとどまり、コロナ前に達成した2,000万人まで回復していない状況です。観光庁では、好調なインバウンドとの相乗効果を生み出し、アウトバウンド需要を喚起していくため、7月1日付けで、旅行振興参事官を新設いたしました。

海外への修学旅行は、児童生徒の海外への関心を高め、その後の留学や語学研修など、将来のキャリア形成にも繋がる大変重要な機会です。

観光庁では、新たに海外への修学旅行を検討されている学校や自治体の皆様が、旅行業者と連携して、教育的付加価値の高いプログラムを開発するためのご支援を行っております。渡航先が欧米の場合は上限150万円、それ以外の地域の場合は上限100万円の開発費をご支援しており、この開発費をご活用いただき、現地をご視察頂くことも可能となっております。8月18日まで募集をしておりますので、是非、ご応募いただけますと幸いです。

近年、物価の上昇や円安による旅行費用の高騰により、修学旅行費用の上限額の撤廃や見直しを行った教育委員会もあると承知しております。観光庁といたしましては、引き続き、皆様が抱える課題をしっかりと受け止め、文部科学省をはじめ関係省庁や関係機関とも連携しながら、より良い修学旅行を実現するため、取り組んでまいりたいと考えております。

本日の研究大会を通じて議論が深まり、これまで以上に修学旅行が豊かな体験と、より深い学びを提供される機会となることを期待しております。

最後になりましたが、我が国の修学旅行の更なる充実・発展と、本日お集まりの皆様方の益々のご活躍、ご健勝を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。



【賛助会員代表挨拶】



近畿日本ツーリスト株式会社

執行役員 教育旅行事業部長 石原 栄二 様

皆様こんにちは。ただ今ご紹介いただきました近畿日本ツーリストの石原でございます。本日は「第42回全国修学旅行研究大会」が盛大に開催されますこと、協会をご支援させていただき賛助会員を代表いたします心よりお祝い申し上げます。

ご参加いただいております全国の教育現場の先生方、自治体、教育行政および教育旅行に携わる各社の皆様方には、日頃より弊社の教育旅行担当者に多大なるご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。改めましてこの場をお借りし厚く御礼を申し上げます。

さて、弊社の教育旅行事業の近況でございますが、国内修学旅行においては、コロナ前とほぼ同等の実施をさせていただき状況となりました。海外修学旅行については、円安の影響もあり回復はやや緩やかですが、コロナ前の80%程度まで回復してきております。このような中、皆様もお聞き及びいただいていると思いますが、いくつかの課題が発生してきております。

一つは、貸切バスやタクシーの乗務員不足、そして修学旅行の実施日の集中化とインバンドの増加による、旅行手配環境の悪化です。

二つ目は、あらゆるものの価格高騰により、従来行っていた修学旅行と同等の内容が難しくなり、日程の工夫を余儀なくされております。

この課題を緩和できる方策としては、修学旅行専用列車の利用がございます。日程を自由に選択できないことで、学校様が敬遠しているところがありますが、JRの特別割引を利用することで、保護者の経済的負担の軽減ならびに先生方の費用削減につながり、また専用列車を利用いただくことで、日程の分散化も可能となります。専用列車を利用した場合と単独で実施した場合を比較すると東京～京都間で往復約5,800円程度お得になります。今一度専用列車のご利用についてご検討をお願いできればと考えております。

また、われわれ旅行会社もこの課題に一生懸命取り組んでおり、企業努力をさせていただいております。

が、物価高騰に対しては、どうしても太刀打ちができません。昨今では、修学旅行に対する助成を行う自治体も出てきておりますが、子供たちの学校外の大切な行事を価値あるものとするためにも、このような施策が広く行われることを期待しています。是非、子供たちの大事な教育の場の提供を一緒に守っていくことにお力添えをお願いいたします。

さて、少しだけ時間をいただいて弊社が取り組んでいる教育旅行のコンテンツを1つご紹介させていただきます。

地域探求をテーマとした授業プログラム「地域の歩き方」を地球の歩き方社と共同企画しております。生徒はこのプログラムにおいて、旅行ガイドブックとして定評のある「地球の歩き方」の編集ノウハウを学びながら、地域への理解を深め、オリジナルのガイドブックを作成します。修学旅行の事前・事後学習への組み込み等に活用いただけます。

ガイドブック制作には①「課題の設定」②「情報の収集」③「整理・分析」④「まとめ・表現」のプロセスが必要であり、これらは学校教育における探究学習に通ずるものがあります。各プログラムをサポートするワークシートやレクチャー動画が用意されますので、先生はファシリテーションやアドバイスを中心として、専門知識の必要なく授業展開いただけます。

生徒はガイドブックの制作を通し、編集者・読者双方の視点で地域をみつめ、自ら設定したテーマに向けて取材（情報収集）を行います。集められた情報は限られた誌面上で整理され、読み手の興味を意識した表現によって情報発信されます。コンセプトとして“地域を学び、人と接し、自分たちの言葉で情報を伝達する”。生徒のより深い学びのため教材となっております。修学旅行や校外学習等に是非ご活用いただければと存じます。今後も弊社としましては、探求学習をテーマにしたコンテンツを増やしていきたいと考えております。

結びになりますが、本研究大会の御盛会及び公益財団法人全国修学旅行研究協会様の今後ますますのご発展を祈念するとともに、ご参会の皆様方の一層のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



【全修協報告】

「全国修学旅行実施状況調査」

—2023（令和5）年度 全国公私立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査—



公益財団法人 全国修学旅行研究協会

調査研究部長 石原 輝紀

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました全国修学旅行研究協会の石原輝紀と申します。

本日はご多用の中「第42回全国修学旅行研究大会」にご参加をいただき誠にありがとうございます。またオンラインでご視聴の皆様におかれましても誠にありがとうございます。

さて、本日の全修協報告ですが、コロナ禍を経ていよいよ本格的に動き出した2023（令和5）年度の国内・海外の修学旅行に加えて海外研修旅行、訪日教育旅行について発表させていただきます。限られた時間での説明となりますが、よろしくお願いいたします。

まず初めに、当協会は3つの重点事業を柱に活動を進めております。そして、その一つが「調査研究活動」です。その事業名通り、「修学旅行の実施状況調査、把握、情報の収集・発信、新たな修学旅行の提案」を目的としており、様々な調査研究を行っております。

その中でも、20年以上前から着手してまいりましたのが「全国公私立高等学校 海外修学旅行・海外研修実施状況調査」です。グローバル化の加速を見据え、その推移を発信してまいりました。

しかし令和元年末、全世界に猛威を振るった「新型コロナウイルス感染症」により、海外への教育旅行は事実上不可能となりました。その苦難の令和2年度から3年間の教育現場の実情を「コロナ禍と修学旅行」としてまとめ、昨年まで3年間にわたりこの研究大会で発表させていただきました。

そのコロナ禍での調査の結果、全国の公私立高等学校、中学校の国内並びに海外修学旅行、海外研修旅行の状況に加え、訪日教育旅行の実態を網羅した報告書に展開。調査名も新たに作り上げることができたのが、本日発表させていただきます「全国修学旅行実施状況調査」です。

本調査が、全ての教育関係者の皆さまにご活用いただける資料となれば幸いです。

【国内修学旅行(公立)】

では、早速令和 5 年度の国内修学旅行の実施状況からご説明させていただきます。まず公立学校です。令和 5 年度は、高等学校、中学校共にほぼ全校修学旅行が実施されました。高校で約 4,400 校 68 万 6 千人、中学校で約 9,500 校 101 万人です。実施校数および参加生徒数がこの対象校数や生徒数と一致していないのは、1 校で複数方面別の修旅行旅の実施や、複数県にまたがる行程による重複を集計しているためによるものです。

では公立高校からご説明させていただきます。旅行方面別の実施状況の円グラフになります。

コロナ前の平成 30 年度との比較ですが、概ね同じような構成比率に戻っていますが、コロナ前公立高校の修学旅行先として最も人気の高かった沖縄への修学旅行が令和 5 年度の段階では回復に至りませんでした。もちろん海外もです。その分「近畿」他、国内ほとんどの方面で増加になりました。

これは、コロナ前の平成 30 年度と、中止が相次いだ令和 2 年度を経て様々な工夫で動き始めた令和 3 年度、そして令和 5 年度の方面別の推移を分かりやすくしたグラフです。

コロナ前は 沖縄、近畿、関東で全体の 6 割を占めていました。そして令和 3 年度は、コロナ禍の中でも「2 年連続の修学旅行中止は何とか避けよう」と混雑地、遠距離移動を避けた近場の修学旅行の実施により、東北や北陸、東海、四国が伸びる現象が起こりました。九州の伸びは、九州 7 県内相互の移動によるものです。

そして、令和 4 年度を経て、令和 5 年度は沖縄を除き、各方面概ね従来のに戻りました。沖縄も令和 4 年度、令和 5 年度そして 6 年度と徐々に回復に向かっています。

人数の推移はこのようになります。コロナ前の平成 30 年度・・・感染拡大を避けるために工夫を凝らした令和 3 年度・・・そして令和 5 年度です。

続いて、公立中学校です。高校同様、コロナ前の平成 30 年度と同じような構成比に戻っています。

コロナ禍の修学旅行で緊急避難的な対応とは言え、令和 3 年度新たな修学旅行先を訪れその魅力や学習素材の発見はあったという声は多く聞かれましたが、やはりコロナが収まれば一旦は、従来の修学旅行に戻りたいという考え方が一般的であり、もっと言えばそれほど修学旅行の行先を変えるということは大変なことであるということだと思えます。

高校同様、平成 30 年度、令和 3 年度、令和 5 年度の方面別の 3 年間の校数の推移はこのようになりました。

首都圏の学校を中心とした、京都を中心とした近畿方面への修学旅行と、東北や東海、近畿の学校の関東への修学旅行が大半を占めている従来の形の平成 30 年度。地元、近隣への修学旅行で全国に分散された令和 3 年度。そして平時に戻った令和 5 年度です。参加生徒数の推移もこのように大変分かりやすく戻っています。

令和 5 年度の公立学校の国内修学旅行のまとめです。

まず高校は、2021（令和 3）年度感染防止対策を執った修学旅行実施で混雑地を敬遠、遠距離移動を避けた近場の方面変更等で特需を受けた地域も従来の状態に戻りました。

しかし、公立高等学校の修学旅行先として最も人気の高かった「沖縄県」の回復が鈍く、一つには 2023 年度の段階ではまだ、移動手段が航空機のみという点において、有事の際の不安を完全に払拭に至らなかったこと。そしてコロナが与えた観光業の冷え込みによる二次的な影響である“人手不足”への不安から次年度以降へ先送りという判断に繋がったことなどが推測されます。

沖縄県を主要な旅行先としていた関東・甲信越地域の学校が、近畿方面へ方面変更したことによって、近畿方面はコロナ前以上の状況となりました。

海外修学旅行はコロナ前の 2 割程度ではありますが、再開へ動き出しました。これにつきましては、この後海外修学旅行で触れさせていただきます。

中学校は、関東地区の学校の京都を中心とした近畿方面への修学旅行が完全に戻りました。しかし、コロナ禍の修学旅行で代替地として訪れた東北、北陸、東海、四国などもコロナ以前を上回る実績を残しています。今後新たな修学旅行の受入れ地としての魅力の発信に期待しています。コロナ禍が残した二次的な影響（人手不足、オーバーツーリズム等）と諸物価の高騰という課題を受けて、今学校現場では修学旅行の在り方について議論されることも多く、新しい修学旅行の模索が始まっています。

令和 3 年度コロナ禍で実施した代替地も、学校にとってこれからの新しい修学旅行を検討する上で選択肢を広げる経験として捉えることができればプラスと言えるのではないのでしょうか。学校にとっても、受け入れ側にとってもです。

【国内修学旅行(私立)】

では続いて、私立学校の国内修学旅行についてです。

この数値ですが、私立校の場合、国内修学旅行についてのデータの完全収集が難しいため、各都道府県の私立学校所管部署にご協力いただいたデータに当協会の独自調査を加えたものを元に集計しています。未確認も一部ありますが、殆どの学校で修学旅行や、それに代わる行事が実施されたものと思われます

私立学校の国内修学旅行調査についてはコロナ禍からの調査のため、前年度比較や 3 年間の推移を元にお話させていただきます。

まず高校の旅行方面別実施状況です。

前年度（令和 4 年度）との比較になりますが、海外修学旅行の回復以外には構成比にあまり大きな変化は見られませんでした。まだコロナが 5 類に移行する前の令和 4 年度の一部海外修学旅行再開から 2 年目にして海外修学旅行は大きく回復しました。しかしまだ様々な事情から再開に踏み出せず国内修学旅行の継続を選択する学校も多く、国内各方面は微減にとどまりました。

令和 3 年度から令和 5 年度の推移です。令和 3 年度の「中止」や「次年度へ延期」の減少により、令和 4 年度は沖縄、近畿、九州、関東、北海道を中心に国内修学旅行が実施され、令和 5 年度もその状態を継続している状態です。海外修学旅行は令和 4 年度の 5 倍近く大きく回復しました。

参加生徒数の推移です。コロナ前全国で海外修学旅行を実施していた学校は全体の4割近くありました。それらの学校が国内での実施に切り替えた令和4年度は、国内の様々な地域にプラスの影響をもたらしたのではないのでしょうか。

中学校も高校同様、海外の回復以外は前年度から大きな変化はみられません。ほとんどの学校で修学旅行を再開した令和4年度、近畿、沖縄をはじめ国内各方面は増加しました。高校同様、令和5年度は海外修学旅行の回復と、国内各方面微減となっています。参加生徒数で見る推移はこのようになります。

私立学校のまとめです。

コロナ前、高等学校全国約1,320校中の約4割520校94,000人、中学校約780校中の約2割150校10,500人の海外修学旅行を実施していた学校が令和4年度日本国内で修学旅行を行いました。また国内の中でも方面変更もあり、国内各方面で新規の多くの私立校が訪れたことだと思います。特に近畿方面は増加が見られました。

感染対策等を考慮しての旅行方面の選定は公立同様ですが、私立の特徴として海外の代替地として遠方（北海道、九州、沖縄）を選ぶケースが多く見られました。

そして令和5年度、高等学校236校、中学校82校が海外修学旅行を再開。39,800人の生徒が世界各国を訪れました。海外修学旅行の再開によって国内各方面が減少しましたが微減にとどまっています。

原油高、円安が及ぼす物価の上昇によって、海外修学旅行の再開時期を慎重に検討し、令和5年度も国内修学旅行の継続を決めた学校が多数あったためです。現在、令和6年度の集計を行っていますが、そういった学校も再開を始め、海外修学旅行は令和5年度を大きく上回る結果となりそうです。

以上が、令和5年度の公立、私立中高の国内修学旅行の実施状況になります。

【海外修学旅行・研修旅行】

では次に、約3年ぶり本格的に動き出した海外修学旅行・海外研修の令和5年度をご紹介します。ここでは、高等学校についてご説明させていただきます。まず海外修学旅行についてです。

2023（令和5）年度は、44都道府県で海外修学旅行が実施され、公私立合わせて359校49,354人の生徒が海外の地を踏みしました。

コロナ前の2018（平成30）年度比較で、校数で37.3%参加生徒数で29.2%ですが、先程も言いました通り、前年度（2022年度）の一部再開から2年目にしてこの大きな前進は学校教育における、国際理解教育への意識の高さを意味しています。今後、実施に踏み切る学校は加速度的に増えていくものと考えます。海外修学旅行の実施率は、コロナ禍の3年間を経て、令和5年度、公立3.5%、私立17.6%と上昇しました。これは、都道府県別の海外修学旅行実施率を日本地図に表したものです。各都道府県の海外修学旅行への着手の様子の参考にしていただければと思います。

次に海外修学旅行の訪問国・地域の構成です。公立校は、延べ 17 か国・地域に訪れました。

最も多かったのが台湾で全体の約 4 割を占めています。元々公立校の訪問国として圧倒的に多かった台湾をはじめシンガポール、マレーシア、ベトナムといった東南アジアを中心に動いています。

私立校の訪問国は、延べ 37 か国・地域にわたります。オーストラリアが 63 校 8,856 人と最も多く、次いでシンガポール、台湾と上位 3 か国はコロナ前と変わりません。

コロナ以降の一つの特徴として公私立校共に、韓国が増えており、既にコロナ前を上回る状況になっています。訪問国・地域の上位 10 か国です。韓国は、公立で 7 位、私立 6 位。公私立合わせて 28 校 2,078 人と 8 位に入りました。韓国が 2,000 人を超えたのは 7 年ぶりになります。

次に、円安等の影響による旅行費用への影響について主要訪問国別の旅行費用平均額を、コロナ前と比較しました。もちろん絶対数が違いますので一概には言えませんが、どの国も大幅に旅行費用が上がっています。海外修学旅行に戻したくても、現段階では戻すことが出来ない要因の一つであると思います。特に、公立校の場合、修学旅行実施基準による旅行費用に関する上限等があり、実施には様々な工夫が必要になります。

海外修学旅行の動きについてまとめました。

令和 5 年度は本格的な再開の年となりました。公立校は、台湾、東南アジアを、私立校はオセアニア、東南アジア、北アメリカを中心に動き出しています。旅費の高騰は再開時期に影響を及ぼしますが、訪問国の選定、実施時期、日数の検討、国内・海外選択コースの設定など様々な工夫をもって回復の方向に進むと思われます。公立校の各都道府県の修学旅行実施基準についても、現状を鑑み上限費用の緩和を打ち出す地域も出ています。

訪問国として伸びた韓国は、文化体育観光部（日本の文化庁、観光庁、スポーツ庁に当たる）による日本での PR 活動や日本の教職員を韓国に招へいするなど学校間交流促進に関する活発な動きがあります。

次に、海外研修旅行について報告いたします。

公私立合わせて、49 か国・地域に 1,022 校が実施、38,628 人の高校生が研修旅行に参加しました。

修学旅行に関しては「実施基準」にある上限費用等により再開時期を計っている公立高校も、参加が希望者制の研修旅行については積極的な動きが見られます。海外研修は全国 47 すべての都道府県で実施されました。

主な研修先国の構成比です。公私立共に、同じような構成になっています。

共に夏季（7,8 月）と 3 月の実施が中心となっています。令和 5 年度の調査では 7,8 月に比べ 3 月の回復が早く、様々な理由はあるとは思われますが、一因としては費用の問題があると思います。一例として、研修先国として最も多いオーストラリア 14 日間の研修旅行の場合、3 月実施に比べ 7,8 月実施の旅行費用は 10～15 万円ほど高額になっていました。

研修先国の上位 10 か国・地域です。

公私立共にオーストラリアが最も多く、アメリカ本土、カナダが多いのもコロナ前の平成 30 年度と同様です。公立の台湾は、人数でコロナ前を越えています。ヨーロッパの中ではイギリスが最も多く、ホームステイによる学校授業参加の語学研修を目的とした研修が多く見られました。こちらもコロナ前の水準まで戻ってきています。

研修の内容は多岐にわたりますが、ご覧の通り「ホームステイ・語学研修」「国際交流・理解」が大半を占めています。別枠で集計していますが、「学校間交流」もこのホームステイ・語学研修や国際交流・理解に含まれるケースが多く、現地学生との交流は、語学はもちろん、異文化を学び、グローバルな視野を身に付けるための、まさに「国際理解教育」にとって生きた学びとなるものです。

視察や実習など分野に特化した「学科の特性」も、世界の最先端技術、第一次産業、芸術等を学ぶ研修として増えています。

また、私立校では多くの学校で「留学」を取り入れており、語学だけでなく海外での生活体験を通した人材育成に繋がる教育に力を入れています。

研修についても旅行費用について少し触れておきます。費用別の実施校数をグラフにしたものですが、オレンジ色がコロナ前の 2018 年度、青色が 2023 年度です。公私立共に実施校数の最も多い旅行費用の分布がコロナ前と比較して高額に寄っていることが分かります。

現在、中々高額の研修旅行ですが、学習効果の高いものであり、今後もより多くの国へ様々な学習目的を持って実施されていくものと考えます。

【訪日教育旅行】

調査報告の最後に、「訪日教育旅行」の実情について触れさせていただきます。

日本を飛び立ち、様々な海外の国々に赴き世界に触れる海外修学旅行と同様に日本に居ながらにして異文化を学ぶ訪日教育旅行の受入れがあります。日本の文化や歴史、生活に興味を持ち訪れてきた海外の学生たちとの交流は、日本の学生たちに改めて自国について考える機会ともなります。

国際理解教育は相互理解です。互いの文化や考え方を理解・尊重し、その上で自らの言葉で自らの考えを伝える。そんな機会を海外修学旅行同様、訪日教育旅行の受入れも与えてくれます。

令和 5 年度の学校訪問を伴う訪日教育旅行の受入れ状況です。高等学校で 483 件 5,671 人、中学校で 121 件 1,823 人の海外の学生が日本を訪れ、日本の学生と交流を行いました。この数値は各都道府県教育委員会にご協力をいただき、把握されているもののみの集計ですので、実際はもっとあると思います。

都道府県別の受入れ件数と受入れ人数です。36 の都道府県の中学高校から訪日教育旅行の受入れを行ったとの報告をいただきました。

海外における教育旅行は、それぞれの国・地域によって特徴があり、学校単位で教職員等の引率による当該学年全員参加が基本の日本の修学旅行とは違う部分があります。旅行会社の日本へ向けた募集型の手配旅行に複数の学校が申し込み実施する訪日教育旅行もあれば、学校内の日本語クラス単位の旅行であったり様々です。それゆえ、学校交流を目的とした訪日教育旅行の実現には様々な課題があります。

まず、スケジュール調整等の難しさがあります。

日本の学校は学習指導要領等に沿って必要な教育課程を実施するため、年間、学期、週、日ごとのスケジュールが組まれています。その中で教育上の意義や相互交流の重要性等を踏まえて受入れについて判断することになるため、事前に学校間で十分なスケジュール調整を行う必要があります。このような受入れ側の状況が適切に訪日国側に周知されていない場合、対応が困難なスケジュール、プログラムが提示され調整が進まなくなることがあります。

2つ目は経費の負担です。

外国の学校との交流に当たっては通訳が必要となるほか、最低限のおもてなしとしてお茶やお菓子の提供、記念品の準備、資料作成等があり、このような経費に充てる予算の確保が困難な場合があります。経費面の支援も大きな課題です。

3つ目は通訳の確保です。

教育旅行を受け入れる上では正確な意思疎通を図るためにも通訳が必要です。当然通訳を雇うためには費用がかかります。また急な受入れ依頼があった場合は確保も難しく、教員、とりわけ英語の先生が対応せざるを得ず負担となってしまいます。

そして(1)にも関わってきますが、訪問・受入れの意義に関する相互理解・認識のギャップです。訪日校は何を求めているのか様々です。高い教育効果を求めSGHのようなレベルの学校との交流を求める学校もあれば、あくまで学校間の友好的な交流が目的の学校もある。日本側も意義を持って受入れを検討しており、双方の意義に関する相互理解を深める必要があります。

そして直前の変更、取消し。

受け入れ準備を進めているにも関わらず直前の訪問キャンセル。このようなことが起こり訪日教育旅行の受入れに消極的になってしまうという声も多数聞かれます。

最後にホームステイ先の確保と安全管理についてです。

訪日教育旅行では、日本人とのふれあい及び経費削減のため、ホームステイを希望する場合も多いです。しかし、我が国では間取り、負担、言語等の理由によりホームステイに応じる家庭は少なく確保が困難となっています。またホームステイは日本の家庭生活や文化に触れる上では非常に有効ですが、一般家庭のため、事故などのリスクにどう対応するかという課題も重要です。

以上、様々な課題を申し上げましたが、冒頭お話ししたように国際理解教育は相互理解教育です。アウトバウンド、インバウンド双方向の交流により、より意義のあるものとなります。未来の日本を担う学生たちに多くの機会を提供できればと思います。

【より良い修学旅行を目指して】

最後に、今回の研究大会の副題でもあります「より良い修学旅行を目指して」について現在、そしてこれからの修学旅行について少しお話させていただき終わりにしたいと思います。

これは、昨年の研究大会で全修協報告させていただきました「コロナ禍と修学旅行」の最後に今修学旅行が抱える課題についてお話した時のものです。「物価の高騰」「人手不足」「オーバーツーリズム」「働き方改革」などあれから1年これらの課題は全く解消されておらず、さらに厳しい状況になっています。これらの課題が及ぼす様々な影響に学校現場からは修学旅行の在り方について議論される声があちこちから聞こえてくるようになりました。

予定していた通りの修学旅行が出来ない。この状態でやる意味があるのかなど。修学の目的を果たせない状況や経済的負担等を抱えながら実施することは本当に大変なことだと思います。それゆえに今修学旅行はその“意義”とともに変化していくことが必要になるのだと思います。

より良い修学旅行とは生徒たちにとってより良い修学旅行ということだと思います。学びも楽しみも。意義と変化がこれからの修学旅行の新しいカタチをつくる。現場の先生方が力を尽くして取り組んでいたに敬意を表します。

修学旅行は様々な変化を繰り返してきました。今回発表させていただいた令和5年度の状況は、コロナが明け平時を取り戻した形になりました。おそらく令和7年度までは同じ状況だと思います。それは、修学旅行の実施に向けた検討が1年半から2年前には始まっているからです。ですが、この令和5年度、6年度の状況を体験した上で検討する令和8年度以降の修学旅行には新しい動きがあるのではないかと考えています。旅行方面、移動手段、行動形態、もちろん内容もです。新たな転換期を迎えているのかもしれませんが、ただ、色々な先生方に、これからの修学旅行のカタチについて考えることをお聞きしますと、やはりベースにあることは、①学校の教育目標を達成できる場所の選択。行き先ありきではなく、教育目標を達成するために最も適切な行き先を選ぶということ。②そして、その修学旅行を行うことで得られる学習効果は、費用に見合うものなのかという費用対効果の検証。③座学では得られない現地で見聞き、体験することでしか得られない「ほんもの」を知ること。④そして旅行という平素と異なる環境で集団を通して学ぶ人としての成長に繋げる活動であることが大事ということです。

より良い修学旅行を目指して学校と共に当協会も邁進してまいりたいと思います。本日は、ご清聴ありがとうございました。



全国修学旅行実施状況調査

【2023（令和5）年度

全国公立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査】

2025.7.23

第42回全国修学旅行研究大会

発表者：石原輝紀



● 調査研究活動

修学旅行の状況調査・把握・情報の収集・発信、新しい修学旅行の提案

□20年以上前から令和元年度まで

「全国公立高等学校・海外修学旅行・海外研修（修学旅行外）実施状況調査」

グローバル化の進む中、若年時からの国際理解教育による世界基準に対応できる人材育成の重要性から「海外修学旅行・研修旅行」の推進が加速することを見据えその推移の調査に着手。

□令和2年度から令和4年度まで

「コロナ禍と修学旅行」

令和元年12月以降、全世界に蔓延を招いた「新型コロナウイルス感染症」により、海外修学旅行・研修が事実上実施不可能に。学校現場におけるコロナ禍での修学旅行の実態を調査しまとめる。

□令和5年度より

「全国修学旅行実施状況調査」

コロナ禍を経て新たなステージに向かう、国内、海外修学旅行及び研修の公立高等学校、中学校の全データを集積。

2023（令和5）年度

全国修学旅行実施状況調査報告

【全国公立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査報告】

国内修学旅行（公立）

実施校数／参加生徒数

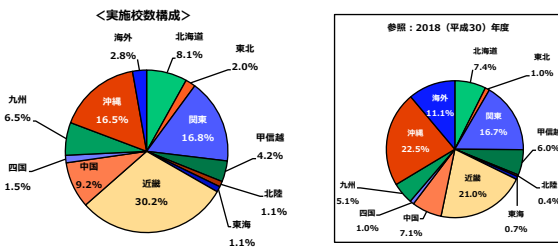
区分	対象校数	実施校数	対象生徒数	参加生徒数
高等学校	3,490	4,419	633,546	686,689
中学校	9,095	9,526	981,189	1,011,716

※「対象」の学校数、生徒数は、文部科学省令和5年度学校基本調査による。（高等学校：全日制

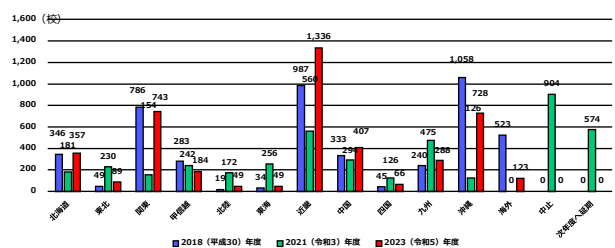
2年生・定時制3年生・中等教育学校後期課程2年生 中学校：3年生）

※同一校で複数方面の実施、複数県にまたがる周遊等による重複があり、校数は設置校数とは一致しない。また生徒数は延べ数を表示。

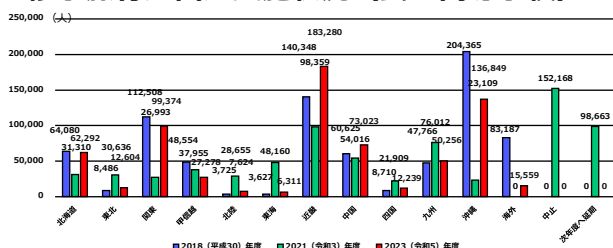
修学旅行方面別実施状況（公立高等学校）



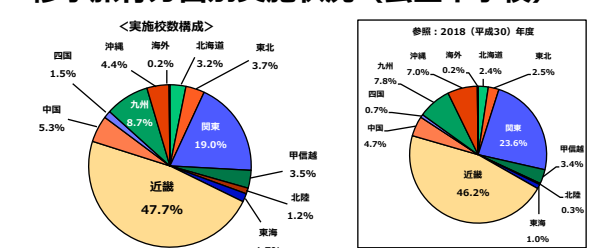
修学旅行方面別実施状況（公立高等学校）



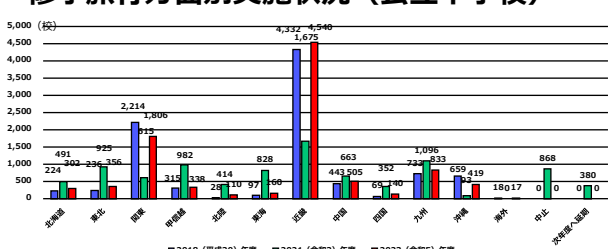
修学旅行方面別実施状況（公立高等学校）



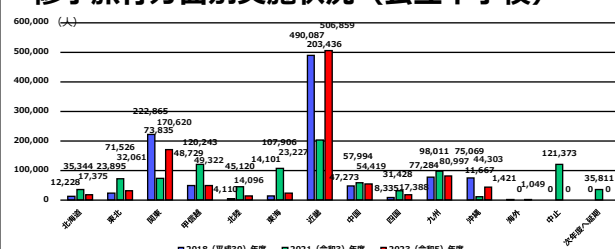
修学旅行方面別実施状況（公立中学校）



修学旅行方面別実施状況（公立中学校）



修学旅行方面別実施状況（公立中学校）



2023（令和5）年度の公立学校の動き

【高等学校】

旅行方面別の構成は、コロナ前（2018年度）の形に戻つつある。

2020年度の修学旅行中止を経て、2021年度感染防止対策を執った修学旅行実施で近畿地を専攻、遠距離移動を避けた近場の方面変更等が特需を受けた地域も従来の状態に。しかし、公立高等学校の修学旅行先として最も人気の高かった「沖縄県」の回復が鈍い。2023年度の段階では、移動手段が航空機のものに比べて、乗客の数の不安定さが払拭できておらず、コロナが与えた観光業の冷え込みによる二次的な影響である「人手不足」への不安から次年度以降へ先送りという判断に繋がったことが推測される。

沖縄県を主要な旅行先としていた関東・甲信越地域の学校が、近畿方面へ方面変更したことにより、近畿方面はコロナ前以上の状況となった。

海外修学旅行もコロナ前の2割程度ではあるが、再開へ動き出した。（123校 15,559人）

【中学校】

旅行方面別の構成は、京都を中心とした近畿方面への修学旅行が約5割を占めるなど、コロナ前（2018年度）の状態には戻った。

近畿方面がコロナ前を超える結果となった。連合体によるJRの計画輸送を行う関東地域の学校の再開が一部の要因であるが、依然コロナを警戒した東海、中国、四国地域に加え地元近畿地域の一部の学校が「近場の修学旅行」の実施したことにより数値を伸ばした。

高校同様、コロナ後の代替方面として注目された、東北、甲信越、北陸、東海、四国方面は減少となったが、コロナ以前より高い回復を続けている。

コロナ禍が与えた二次的な影響（人手不足、オーバーツーリズム等）と観光業の低迷という大きな課題を受けて、今学校現場では修学旅行の在り方について議論されることも多く、新しい修学旅行の概念が生まれている。コロナ後の代替地として設けられたこれらの方面も経験したことにより、これからの修学旅行の継続地として検討される材料になったのではないだろうか。

2023（令和5）年度 全国修学旅行実施状況調査報告

【全国公立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査報告】

国内修学旅行（私立）

実施校数／参加生徒数

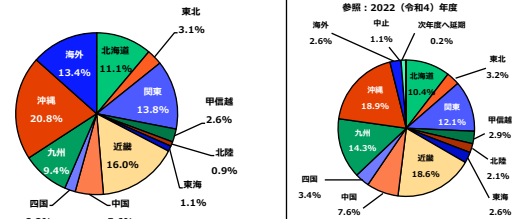
区分	対象校数	実施校数	対象生徒数	参加生徒数
高等学校	1,339	1,754	345,229	308,790
中学校	781	615	80,612	63,347

※「対象」の学校数、生徒数は、文部科学省令和5年度学校基本調査による。（高等学校：全日制2年生・定時制3年生・中等教育学校後期課程2年生 中学校：3年生）

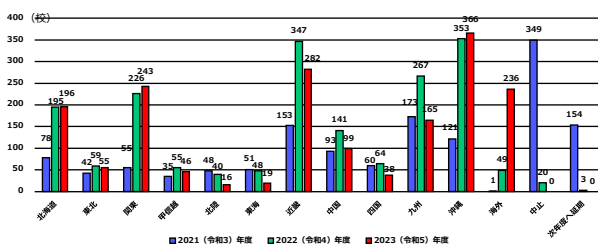
※同一校で複数方面の実施、複数県にまたがる周遊等による重複があり、校数は設置校数とは一致しない。また生徒数は延べ数を表示。

修学旅行方面別実施状況（私立高等学校）

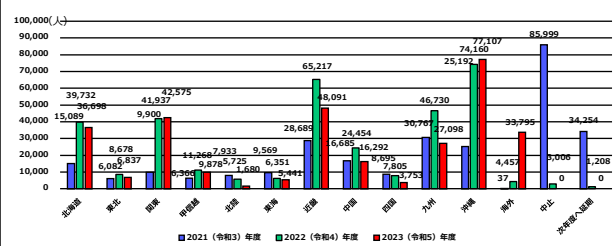
＜実施校数構成＞



修学旅行方面別実施状況（私立高等学校）

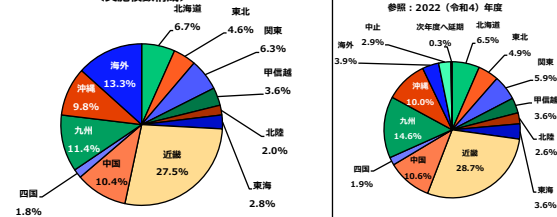


修学旅行方面別実施状況（私立高等学校）

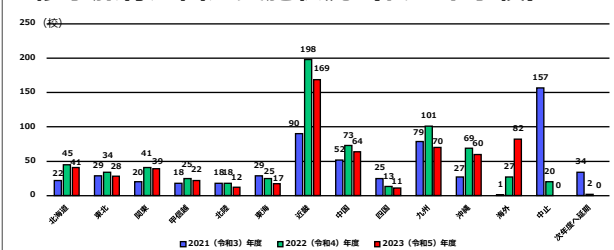


修学旅行方面別実施状況（私立中学校）

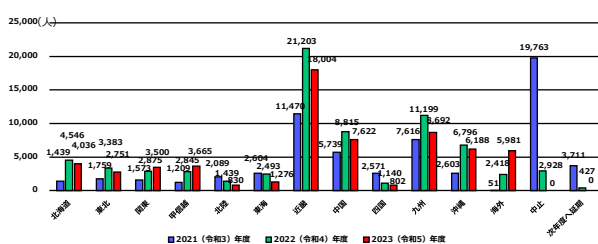
＜実施校数構成＞



修学旅行方面別実施状況（私立中学校）



修学旅行方面別実施状況（私立中学校）



2023（令和5）年度の私立学校の動き

私立高等学校については、コロナ以前まで海外修学旅行の実態調査のみを行っていたため、コロナ禍（2021年度）を含めた3年間の推移とした。

コロナ前、高等学校全国約1,320校中約4割520校（94,000人）中学校約780校中約2割150校（10,500人）の海外修学旅行を実施していた学校が2022年度日本国内で修学旅行を行った。感染対策等を考慮しての旅行方面の選定は公立同様であるが、海外の代替地として遠方（北海道、九州、沖縄）を選ぶケースが多く見られた。

2023年度、高等学校236校、中学校82校が海外修学旅行を再開。39,800人の生徒が世界各国を訪れた。再開により国内各方面が減少したが微減である。原油高、円安が促す物価の上昇により、海外修学旅行の再開時期を慎重に検討し、今年度も国内修学旅行の継続を決めた学校が多数あった。

2023（令和5）年度 全国修学旅行実施状況調査報告

【全国公私立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査報告】

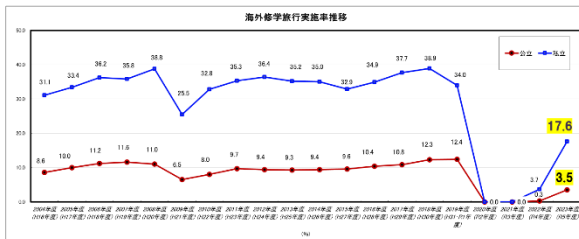
海外修学旅行・研修旅行

海外修学旅行（高等学校）

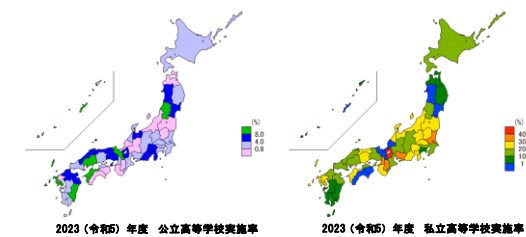
年度	計			公立			私立		
	実施校数	件数	参加生徒数	実施校数	件数	参加生徒数	実施校数	件数	参加生徒数
2023年度	359	510	49,354	123	148	15,559	236	362	33,795
2022年度	58	83	5,111	9	10	654	49	73	4,457
2018年度	962	1,264	168,881	440	472	75,052	522	792	93,829

※全国44都道府県で実施。

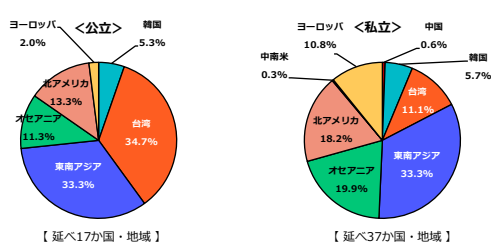
海外修学旅行実施率



都道府県別実施状況（実施率）



訪問国別実施校数比



訪問国上位10ヶ国・地域

公立				私立			
国・地域	都道府県数	校数	人数	国・地域	都道府県数	校数	人数
台湾	25	52	6,433	オーストラリア	22	63	8,856
シンガポール	17	26	3,144	シンガポール	23	53	6,811
マレーシア	8	15	1,775	台湾	23	39	3,714
オーストラリア	10	15	1,562	マレーシア	14	23	2,754
ベトナム	6	6	1,217	ハワイ	13	20	2,110
グアム	6	6	813	韓国	14	20	1,527
韓国	7	8	552	イギリス	9	12	1,520
ハワイ	5	6	480	アメリカ本土	12	21	1,390
アメリカ本土	2	4	176	ベトナム	8	13	1,372
カナダ	4	4	167	グアム	10	12	1,272

主要訪問国別旅行費用（平均額）

公立	韓国	台湾	シンガポール	マレーシア	ベトナム	オーストラリア	アメリカ本土	ハワイ	グアム
2023年度	149,562	158,360	213,395	210,240	172,104	287,246	374,634	350,212	191,299
2018年度	98,251	113,589	154,418	147,456	140,805	217,365	261,710	234,315	130,128
平均日数	4.3	4.5	5.2	5.2	4.9	5.0	7.1	5.3	4.5

私立	韓国	台湾	シンガポール	マレーシア	ベトナム	オーストラリア	アメリカ本土	ハワイ	イギリス
2023年度	159,002	173,130	267,856	279,887	274,292	396,312	473,663	384,838	507,620
2018年度	139,823	137,779	187,957	187,460	169,361	303,389	339,973	264,784	359,044
平均日数	4.6	4.4	5.1	5.9	5.6	8.1	7.6	6.3	8.8

2023（令和5）年度の海外修学旅行の動き

昨年度（2022年度）の海外修学旅行一部再開から2年目にしてこの大きな前進は、学校教育における国際理解教育への意識の高さを表している。今後加速度的に増えていくものと考えられる。

公立校は、受け入れ態勢が整った台湾を中心に動き出している。東南アジアではシンガポール、マレーシアに次いでベトナムが多い。経済成長著しい国から感じる熱意やベトナム戦争に関する平和学習、学びに旺盛な現地学生との交流などが体験できる訪問国として評判も高い。

私立校は、コロナ前とほぼ同様の国が上位を占めた。（オーストラリア、シンガポール、台湾）その中で、韓国の伸びが著しく、既にコロナ前を上回っている。

旅行費用面もあるが、文化体育観光部（日本の文化庁、観光庁、スポーツ庁に当たる）による日本の主要地域でのPR活動や、日本の中学校、高等学校教職員100人を韓国に招へいするなど学校間交流を促進していく政策が執られている。

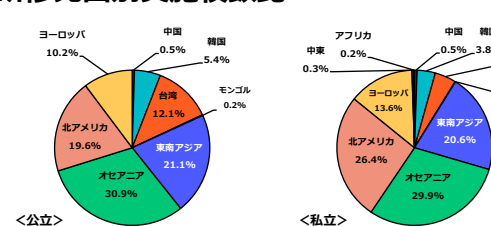
旅行費用の高騰により、再開のタイミングを計らざる得ない海外修学旅行ではあるが、様々な工夫をもつて間違いなく回復の方向に進むと考える。

海外研修旅行（高等学校）

年度	計			公立			私立		
	実施校数	件数	参加生徒数	実施校数	件数	参加生徒数	実施校数	件数	参加生徒数
2023年度	1,022	1,683	38,628	521	644	13,556	501	1,039	25,072
2022年度	58	83	5,111	9	10	654	49	73	4,457
2018年度	1,537	2,509	47,477	837	1,140	19,761	700	1,369	27,716

※全国47都道府県で実施。

研修先国別実施校数比

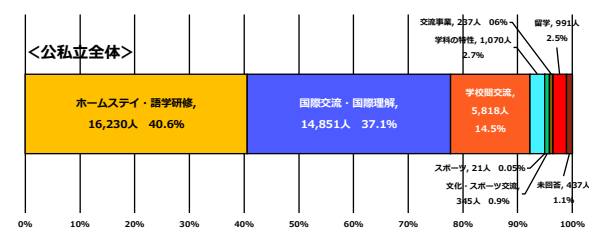


研修先国上位10ヶ国・地域

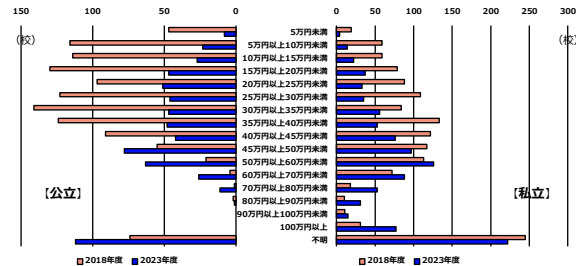
公 立			
国・地域	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	35	172	4,548
アメリカ本土	36	96	1,984
台湾	27	78	1,329
シンガポール	16	33	1,260
マレーシア	19	34	1,050
ニュージーランド	14	27	927
イギリス	15	27	601
韓国	17	35	494
カナダ	12	14	421
フィリピン	12	23	254

私 立			
国・地域	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	33	183	5,211
カナダ	29	104	3,181
アメリカ本土	31	107	3,003
イギリス	19	81	2,674
ハワイ	16	29	1,738
シンガポール	20	36	1,356
ニュージーランド	25	91	1,315
台湾	18	41	1,177
フィリピン	22	64	1,146
韓国	19	35	1,008

研修内容別構成（生徒数） ※延べ数



旅行費用



2023（令和5）年度 全国修学旅行実施状況調査報告

〔全国公私立高等学校・中学校修学旅行等実施状況調査報告〕

訪日教育旅行

訪日教育旅行促進の意義

訪日教育旅行は、海外の児童生徒が日本の学校を訪問することにより、日本の児童生徒が海外に行かずとも異文化を直接体験し、国際理解を深めることができるという点、さらに海外の学校の生徒と交流することで海外に興味を抱くだけでなく、生きた外国語に触れる機会になるという点で教育上大きな意義を持つ。

又、異文化を体験、受け入れることは自国を改めて見つめ、その素晴らしさを知る機会となり、日本の正しい姿勢を先入観なく受け入れ国際相互理解を増進させ、未来志向の国際関係を築くことに繋がる。

訪日教育旅行の受入れは、海外修学旅行とともに国際理解教育において大きな意義を有するものである。

訪日教育旅行

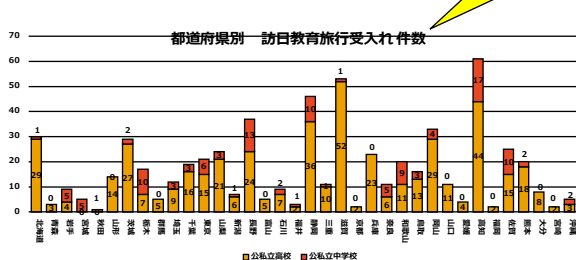
＜公私立高等学校＞ 483件 5,671人

国・地域	件数	人数
中国	34	648
韓国	88	796
台湾	73	1,690
タイ	34	166
シンガポール	6	135
マレーシア	10	167
他のアジア	46	831
オセアニア	53	563
北米・ハワイ	58	434
ヨーロッパ	63	202
その他	18	39

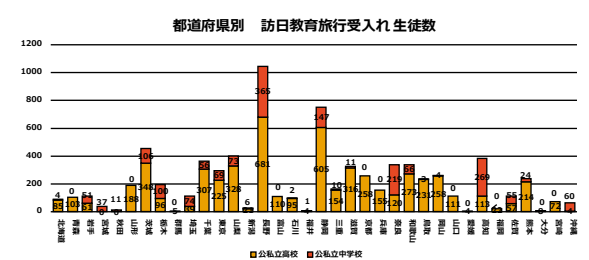
＜公私立中学校＞ 121件 1,823人

国・地域	件数	人数
中国	12	219
韓国	2	52
台湾	23	610
タイ	6	66
シンガポール	1	12
マレーシア	5	41
他のアジア	9	154
オセアニア	17	275
北米・ハワイ	34	336
ヨーロッパ	11	55
その他	1	3

訪日教育旅行



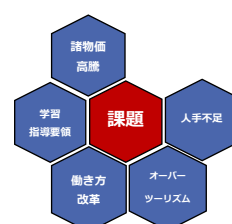
訪日教育旅行



訪日教育旅行受入れの課題

- （1）スケジュール調整等の困難さ
- （2）経費の負担
- （3）通訳の確保の困難さ
- （4）訪問、受入れの意義に関する相互理解・認識のギャップの解消
- （5）直前の変更・取消し
- （6）ホームステイ先の確保と安全管理

第41回全国修学旅行研究大会 「これからの修学旅行を考える —コロナ禍を経て—」



- ◎ 学校の教育目標を達成できる場所の **選択**
- ◎ **費用に応え得る** 学習効果
- ◎ 座学では得られない「**ほんもの**」体験
- ◎ 平素と異なる環境（旅行先）での **集団** **活動**を通して学ぶ人としての成長

—より良い修学旅行を目指して—

【実践事例発表】

「中学生のシンガポール修学旅行」



港区立三田中学校

校長 上原 良枝 氏

《発表者紹介》



上原 良枝（うえはら よしえ）氏

東京都中野区立第八中学校を皮切りに、家庭科教員として教鞭を執る。5校目となる台東区立忍岡中学校にて主幹教諭となり、平成30年より港区立三田中学校で副校長として勤務。その後、引き続き同校にて校長として勤務し、現在4年目として在職中。

教員時代は、関西（京都、奈良）、東北、広島（関西含む）修学旅行を引率してきた。現在は、国際理解教育に力を入れている港区にて、海外（シンガポール）修学旅行として実施している。

皆さま、こんにちは。昨年度から始めました港区の海外修学旅行ですが、一昨年度9月にその決定がされた時に大変話題になりました。港区にちょうど私が校長として勤務している時にそのようなことが起こるのかと思いましたが、昨年度と今年度2回行かせていただきました。拙い発表ですがどうぞよろしくお願いいたします。

中学生のシンガポール修学旅行。海外経験を通して多様性や国際理解を育む3泊5日ということで発表させていただきます。港区立三田中学校校長の上原良枝です。

本日の発表の概要です。持ち時間が1時間あるということで、間が持たなくなると困ると思ひまして、少し本校の紹介もさせていただきます。

まず、海外修学旅行に決定した経緯。これは多分に港区教育委員会にご協力をいただきました。又、港区中学校校長が海外修学旅行に期待することを発表させていただきます。



次に本校における事前の準備、事前指導。どんなことをしたのかということをご紹介させていただいて、実際の旅行内容についてその行程を発表させていただきます。ここでは写真をたくさん入れておりますので、皆さん実際にシンガポールに行った気分になっていただければと思います。

そして事後指導と最後に気づいたことや感じたことのまとめをさせていただきます。

港区立三田中学校。普通の公立中学校が修学旅行でシンガポールに行きました。私もまさか公立中学校の教員になったときに、現役の間に海外の修学旅行に行けるとは夢にも思っていないでした。普通の公立中学校なんですけれども、港区は普通の区ではなかったんですね。素晴らしい区なんです。ですから、海外修学旅行に行けたんだと思います。



象徴的な写真を載せさせていただきました。「マリーナベイ・サンズ」有名なホテルですよね。それからマーライオン公園、そしてマリーナバレー。ピクニック場だそうですね。すごく広い芝生がありました。ただ、すごくいい天気で日差しが強く、ここでピクニックしたらちょっと熱中症の危険があるかなという感じがしました。

ここでは学年の集合写真と各クラスの集合写真を撮りました。こちらはガーデンズバイザベイ植物園です。そして多様性ではないですが、アラブストリートにあるサルタンモスク。大変異国情緒が溢れる場所でした。

1. 港区立三田中学校紹介

それではまず学校紹介をさせていただきます。修学旅行の話聞きに来られているのにあまり興味がないかもしれませんが、簡単にご説明しますのでお聞きください。

平成 13 年に芝浜中学校と港中学校が統合して開校した今年で 25 年目を迎える学校です。来年度 25 周年を迎えます。所在地は港区三田 4 丁目です。最寄り駅は JR 田町駅。駅から徒歩 12 分、丘の上にあるので上り坂で結構行く時はきついです。帰りはすごく早く 8 分ぐらいで帰れてしまうんじゃないかなと思います。あと都営地下鉄浅草線と三田線、これは多少手前にありますので徒歩 11 分ぐらい。東京メトロ南北線白金高輪駅。ここは私が今使っている駅なのですが、一番遠くて 14 分ぐらい。この他にも高輪ゲートウェイとか泉岳寺とか麻布十番からも歩けますが、その辺になると 20 分ぐらいかかるかなというところです。港区は有名な名所のような所がたくさんあります。学校から歩ける範囲では、六本木ヒルズや虎ノ門ヒルズ、最近できた麻布台ヒルズ、東京慈恵医科大学病院など。

学区域ではないんですけども、比較的近くに東京タワーがあります。これも 20 分ぐらいです。学区域では慶應義塾大学があります。東門の写真を撮ってきました。

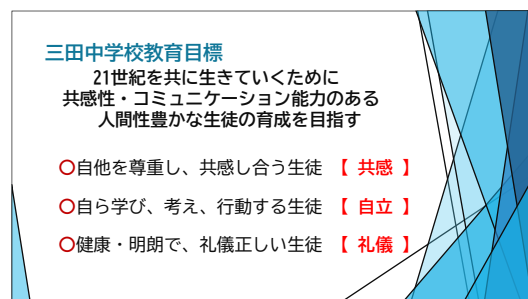


そして隣には大使館があります。港区には大使館が 80 以上あって、多分日本にある大使館の半分以上は港区に所在しています。これはクウェート大使館です。昨年度、いろいろ関わらせていただいて中にも入れさせていただきました。

以上のような説明で大体、三田中学校の場所的なものは想像いただけるかと思います。

次に三田中学校の教育目標ですが、21 世紀を共に生きていくために、共感性、コミュニケーション能力のある人間性豊かな生徒の育成を目指しております。

自他を尊重し、共感し合う生徒『共感』、自ら学び、考え、行動する生徒『自立』、健康・明朗で、礼儀正しい生徒『礼儀』。こんな生徒に全員がなってくれたらいいなと思います。生徒たちは穏やかで良い生徒が多いです。授業もとても静かに集中した講義ができますし、今、複線型授業を進めています、一生懸命やっています。学校としては、私は良い形で今進んでいるのではないかなと思います。



そして、三田中学校には三つの良き校風があります。

「明るいあいさつ」「真剣な学習」「活発な行事・部活動」

本当であれば学校は勉強する場ですから、「真剣な学習」を最初に入れてもよかったんですが、まずは交流の場ということで、人間的な関わりということを大切にして本校では必ず「明るいあいさつ」から紹介をさせていただいています。

そして、「真剣な学習」、「活発な行事・部活動」。学校は学習していればいいわけではなく、集団で行動するというとても人間的な触れ合いが授業では培えないようなものとして行事や部活動で身につくことで成長があると思うんですね。ですから、そこを強く言っております。

全力で頑張る文化ということで、これも二言目には校長講話でも言うんですけども、「三田中魂」。本気で頑張ろう、全力でやろうよっていうことをよく言っております。そして、全力だけではなくて、もう一つ「三田中愛」。愛のある行動、配慮のある行動です。体育祭では運動神経の良い子は頑張れます。すごく活躍します。だけど、苦手な人もいますよね。でも、苦手でも一生懸命やる「三田中魂」でやってくれたら素晴らしいことですし、そんな人たちが少しでも普段よりも良い結果を残せたり、みんなと頑張る姿勢が見えたりした時に、お互いに声掛けをしよう。そして何か配慮がある「ドンマイ」とか、失敗しても「大丈夫だよ」というような、そういう思いやりのあるふれあいを大切にしようということが「三田中愛」です。それを二言目には言っております。

そして校舎ですが、しばらくは芝浜中学校の古い校舎を使っておりました。その間に港中学校の場所に新しく建設をして平成 21 年の 11 月に完成しました。12 月に移転、平成 22 年から使っています。

これが正門なんですが、実は隣にクウェート大使館があるせいで少し引っ込んでいるんです。学校の校庭とか校舎が、道路からですと全景が見えませんが、学校と分からずに初めて行った時に通り過ぎてしまいました。

そして、ここはプロムナードと言っておりまして、屋根がついている通りで正門入ったところからは雨でも一応傘がなくても濡れずに通れる形になっています。そして、全景です。クウェート大使館のさらにもっと手前で、大使館を包み込むような形で学校の敷地があるんですけれども、外バスケットゴールがあって、ちょっとしたコートがあります。

中の様子です。体育館は地下2階にあります。地下2階ですが窓があります。そして格技室、小体育館と呼んだりもしています。多少小さい体育館ですが、ここでも普通に体育の授業ができます。授業では柔道をやっています。それから部活動でバドミントンをやったり、ダンスをやったり体育的な活動をしています。そして一般教室。朝読書の様子です。図書室、地下1階にプール、温水プールなんです。夏しか使っていません。そして相談室、特別支援教室など。これが校舎内ですね。

中学校紹介の最後ですが、昨年度から学校運営協議会というところでコミュニティスクール化しております。コミュニティスクール2年目となる学校です。2年目ですが、それ以前から地域とのつながりがとても強い学校で、港区と言ってもとても下町的な雰囲気がありまして、昔から住んでいる方も多く、町会もたくさんありまして、そこでの関わりやお祭りやいろいろな行事でたくさんの地域の方にもお手伝いしていただいています。学校にも皆さんよくいらっしゃるんですね。ですから、前からコミュニティスクールだったような感じがしています。

こちらが制服です。男子と女子。女子は今スラックスを履いている生徒も多いです。女子はスラックスの時はリボン帯だと可愛すぎるので、ネクタイというのも許されております。

こちらは2大行事の「合唱コンクール」と、全校で踊る「体育祭ソーラン節」の様子を撮影したものを紹介させていただきました。

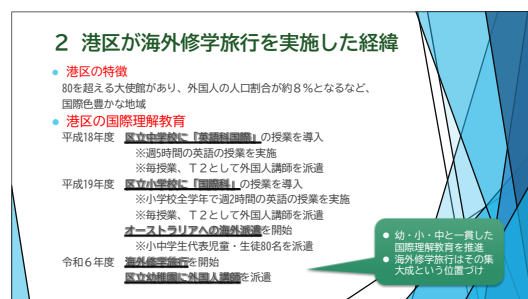
先ほど校舎の全景が少し出ている時に申し上げればよかったんですけども、昨年度、校舎や教室のことで「チョコちゃんに叱られる」に取り上げられて紹介していただいたんですよ。「教室の窓はなぜ左側にあるのか」ということで、昔は右利きばかりだったからというようなことなんですけど、今はもう前に窓があったり、右側に窓があったり、あまり関係なく色々な多様性ということにしておりますが、ちょっとテレビに出たので嬉しかったなと思っております。

2. 海外修学旅行に決定した経緯

では、港区が海外修学旅行を実施した経緯についてお話しさせていただきます。

まず、港区の特徴ですね。特徴といたしましては、港区は先ほども申し上げましたが、80を超える大使館がありまして、外国人の人口割合が8%となるなど、とても国際的な町です。

そして、港区の国際理解教育というのがやはり自ずと必要になりまして、実は20年近く前(平成18年)から港区の中学校には「英語科国際」という授業が入っております。ですから、普段の4時間の週の英語の授業以外に、毎週1時間ずつ「英語科国際」という授業が入りますので、週5時間の英語科ということで実施しております。



普通の授業というよりは、いろいろコミュニケーションを図ったり、自分でプレゼン発表したり、そういうことを学んだりします。また、俗に言う ALT です。港区では「NT」ネイティブティーチャーと呼んでいますが、NT の先生と国際科の先生とお二人で授業をしております。

更にその 1 年後には小学校にも「国際科」の授業が導入されています。小学校の時から文法ではないですが、歌とかいろいろなことで楽しみながら英語を学んでいくという形で週 2 時間国際科の授業をしています。

中学校も英語の授業数が多いことでその分総合が少ないですが、国際都市港区ですのでできるだけ英語に触れる場面を多くしております。

平成 19 年からはオーストラリアの海外派遣を選ばれた生徒だけになりますが開始しています。小中学生の代表生徒約 80 名が毎年派遣されていきます。

令和 6 年度からは海外修学旅行の開始もそうですが、区立幼稚園に外国人講師が入りました。幼稚園ですから、それこそ本当に普通の会話やちょっとしたお遊戯とか、もしかしたら中学生よりも浸透する力が強いのかもしれません。そんなことで、幼稚園でも英語をわりと普通に使えるような環境というものを港区がつくってくれています。

幼小中と一貫した国際理解教育を実施して、海外修学旅行は、幼稚園、小中学校、義務教育 9 年間の最後の集大成という位置づけで行っております。

2 港区が海外修学旅行を実施した経緯

- **保護者の期待**
令和 4 年度に港区が実施した、子育て世帯を対象とした調査では、約 93% の保護者が子どもを海外に留学させたい希望があり、子どもがグローバルな視野をもち活躍することを願っている。
- **方面をシンガポールとした理由**
 - ・ 英語が公用語の一つであること ・ 多文化共生社会であること
 - ・ 時差や移動時間が短く、生徒への負担が少ないこと
 - ・ 治安が良いこと ・ 医療体制が充実していること
 - ・ SDGs などに先駆的に取り組んでいること など

次に港区が海外修学旅行を実施した経緯ですが、保護者の期待について様々なアンケートを行っています。港区が 4 年度に実施した子育て世帯を対象にした調査では、約 93% の保護者が子供を海外に留学させたいという希望があり、子供がグローバルな視野を持って活躍することを願っているという区であるということが分かりました。

行き先をシンガポールにした理由ですが、これは本当に私も海外と聞いた時にシンガポールではないかなと思ったくらいですが、まずやはり英語が公用語の一つであること。そして多文化共生社会、多文化多様性ということを知ること。そして時差はマイナス 1 時間であまり変わらないので時差の違和感はありません。移動時間は 6～7 時間ぐらい。比較的短く、生徒への負担が少ないということです。治安が良く、医療体制が充実していること。やはり修学旅行、本校も 100 人ぐらいで行きますから誰かしら具合悪くなります。そういう時に医療体制が充実していると言うのはとても良いと思います。治安についても日本以上に良かったという印象を私は持っています。そして、SDGs に先駆的に取り組んでいることなどがあります。

以上が海外修学旅行の方面をシンガポールにした経緯・理由ですが、一番の理由はやはり港区は予算がとても潤沢であるということです。それがなかったら同じ条件であっても実施できない自治体が多いのかなと思います。それができる港区にこういう素晴らしい機会をいただくことができました。

3. 港区の海外修学旅行について

次に港区の海外修学旅行の目的ですが、港区立中学校第3学年生徒が義務教育9年間の国際理解教育で得たことを、実際に海外で具体化して、コミュニケーション能力として発揮したり、異文化への理解をより深めたりすることが大きな目的です。

令和7年度の予算は3億9,000万円です。教員も行きますからかなりの額になります。そして委託事業者は東武トップツアーズ株式会社。ここはプロポーザルというか、色々なプレゼンして選ばれたということで、海外の修学旅行にとっても強い旅行会社であるということです。私も2回行かせていただきましたが、様々な面でサポートしていただいてとても安心でした。

そして実施時期。今年度は5月から9月。5月最終週からの実施で、本校は2番目に行った学校でしたので6月の初旬に行きました。去年は7月の初旬でしたが、そんなことで毎週どこかの学校が行っているんです。平日の月曜日から金曜日に行っていますから、校長10人で集まろうとしても、どこかの学校の校長がいないという形で大体この時期は行っているということになります。

修学旅行の行程についてです。一般的な行程をお話しします。

1日目は朝6時集合、午前発の飛行機で現地へ行きます。そして2日目は現地学生との交流。班毎にと英語での市内散策「スカベンジャーハント」という色々な勉強をしながらミッションをクリアしながら英語力を身につけていくということをします。

そして3日目。セントーサ島での体験活動を行いました。4日目は探究型フィールドワーク。ガーデンズバイザベイとかオーチャードロードなど、午前中はシンガポール動物園に行って、これも班毎で集まってフィールドワークをしたということですね。一日の活動を終えて夕食を食べた後、ホテルに帰ってゆっくりしたいところですが、そこからまた飛行機に搭乗して、夜発の飛行機で日本へ、5日目朝早く着いて学校で解散という3泊5日の行程になります。

自己負担金は5万円。5万円というのは普通の修学旅行よりもむしろ安いですが、一応港区としては、もしもパスポートを持っていない人がいたら1万円前後かかりますのでそのパスポート代、それとスーツケースを持っていない人も1万円ぐらいかかるだろうという必需品のようなお金がかかることを含めて7万円ということで負担額は他の修学旅行と同じぐらいにしていると聞きました。

ただ、実際はパスポートを持っている生徒が多いんですよ。海外旅行の経験がある生徒が港区だと比較的多いです。もちろん全員ではありませんが。それからスーツケースですが、港区に100台寄付してくれた企業がありまして、各校10台スーツケースが貸与されました。希望者がいればそれを使うことができます。昨年度うちの学校は16人希望者がいて6台足りなかったんですけども、終わった学校からお互

3 港区の海外修学旅行について

- **目的**
港区立中学校第3学年の生徒が義務教育9年間の国際理解教育で得たことを、実際に海外で具体化して、コミュニケーション能力として発揮したり、異文化への理解をより深めたりする。
- **予算（令和7年度）**
約3億9000万円
- **委託事業者**
東武トップツアーズ株式会社
- **実施時期**
令和7年5月から9月まで

3 港区の海外修学旅行について

- **行程（3泊5日）**
1日目・・・学校集合、午前発の飛行機で現地へ
2日目・・・現地学生と英語で交流しながら市内散策
3日目・・・セントーサ島での体験活動
4日目・・・探究型フィールドワーク、夜発の飛行機で日本へ
5日目・・・帰国・解散
- **自己負担金**
5万円（就学援助受給世帯は負担なし）
- **その他**
港区に寄付されたスーツケース100台を各中学校に配布しており、希望する生徒に貸与

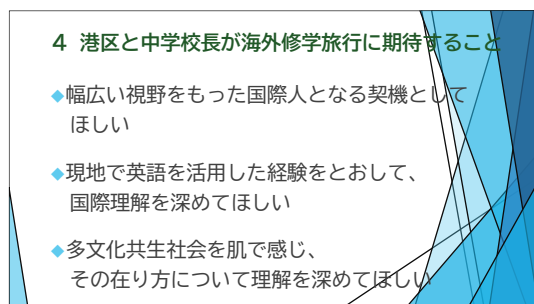
いに貸し借りをしながらうまく調整してスーツケースも買う必要なかったもので、本当に実質 5 万円で海外に行ったという経緯がございます。

4. 港区と中学校長が海外修学旅行に期待すること

では、港区と中学校長が海外修学旅行に期待することです。

「幅広い視野を持った国際人となる契機としてほしい」。すごく大事なことです。後で申し上げますが、やはり検証の結果この機会を得てすごく海外のことや将来のことを見据えたという生徒アンケートもたくさんありました。

そして「現地で英語を活用した経験を通して国際理解を深めてほしい」。自分から積極的に英語を使うという場面は港区にいてもそこまでないので、実際にそういう探究型フィールドワークや現地の大学生と一緒に班毎に交流するためには、どうしても英語を使わざるを得ない場面というのが良い経験になったのではないかと思います。そして「多文化共生社会を肌で感じ、その在り方について理解を深めてほしい」。こういう期待に対してかなり近づけたのではないかと思います。



5. 事前準備・事前指導

そしてこれは本校のことが中心となりますが、事前準備、事前指導です。まずクラスでシンガポールに関する授業を行いました。そしてオンラインで現地の学校と繋いで交流をさせていただきました。このときの英語科の教員が学生時代にたまたまシンガポールで働いていたことがあるということで、その知り合いの先生の伝手を通じてこんなような交流が持てました。その伝手は今年度の生徒にもうまく使ってくれて継続しております。



シンガポールの情報をクイズ形式で出題してくれて、とても盛り上がりました。天気のこと、気温のこと、国旗のことや観光地について様々なことを楽しみながら考えて答えることができました。一番得点が高かった生徒は発表されてとても喜んでいました。実は現地に行ったときに、そのサンディ先生が来てくれて写真を撮って表彰もしていただきました。

それから修学旅行の3週間前ぐらいには、シンガポール大使館の方に来ていただきまして、参事官の方とその通訳の方からたくさんの情報をいただきました。いろいろなシートでも見せていただきましたし、たくさん質問もして、たくさんお答えしていただきました。

生徒たちは食べ物のことや、流行っているものとかに興味を持って聞いていました。私がこの参事官の方のお話しでとても感動したのは、シンガポールは元々マレーシアから独立したのですが戦いで独立したのではなく、何か様々な問題があって排除されて独立させられてしまったということです。そのときの国

土は東京都の 23 区強くらいの面積です。国土はない、産業も飛び抜けて無い、鉱物とか資源もない。無い無いづくしのこの国をどうやって発展させていけばいいのかということを、当時のリー・クアンユー首相が考え、ここまで発展した国になったということです。そしてその考えで最も素晴らしいことは一番の資源は人、人間を育てる、人を教育するということを強く打ち出したということで、学習とか教育にはものすごく予算をかけているということです。

実はシンガポール国立大学ですが、様々な調査があるんですけども、タイムズハイヤーエデュケーション（イギリスの教育専門誌）というものではアジアで 3 位、世界で 17 位、また QS 世界大学ランキングではアジアで 1 位なんですね。ちなみに東京大学はタイムズハイヤーエデュケーションでは 5 位で東京大学よりも上なんです。4 位には南洋理工大学、これもシンガポールの大学です。大変教育に力をかけて、人を資源として育てているということが強く感じました。

あとは自然の中の都市国家づくり、自然をととても大事にして都市をつくるということ。すごく素晴らしい近代的なビルがたくさんあるんですが、自然とうまく共存しているんです。シティ・イン・ネイチャーと申しますが、そこがすごく考えて造られた都市だなということを強く感じました。そんなご説明もいただいて、私はとても興味を持った状態でシンガポールに行くことになりました。



今年度、技術の授業で情報の分野を勉強しながらシンガポールのことを調べようとそれぞれでサイネージを作りました。これがすごく意識付けとしてよかったと思います。これを修学旅行の少し前からずっと昇降口のところに展示して、私たちが出かけている間もずっと展示してくれていたそうです。ですから 1、2 年生もこれを見て、自分たちも来年行くんだって思ったんでしょうね。

そして、学級活動や総合の時間で今年度は 6 時間学習の時間をとりました。シンガポールの概要、多文化×シンガポール、それから SDG s、気候と星、そしてオンライン学習をしたり効果検証を行いました。

その他に道徳でこれちょっとネーミングがすごいんですけど、「キラーゼブラ」と呼ばれていて、国語の先生の担当した道徳なんですけど、キラーゼブラって横断歩道のことなんですね。ゼブラ＝シマウマですが、なぜかキラーという死亡事故になってしまう場所であると。横断歩道は歩行者がいた時は必ず車が止まらなければいけないんですが止まってくれないんで、そのまま轢かれてしまう。むしろ横断歩道は安全な場所じゃなくてキラーな場所になってしまうということで、やはりちゃんとルールを守ることの大切さを道徳の時間で勉強しました。

海のゴミは「まちなか」で生まれる×シンガポール。それぞれ先生方が凝ったネーミングを付けてくれていますけど、レジ袋やペットボトルなんて海では発生しないゴミ。そういうものが海の中にもゴミとしてある。それを無くすような働きかけ。

そして命のトランジットビザという「世界平和」のこと。シンガポールに限らないですけども、きっと杉原千畝さんのことだったと思いますが、そういう勉強もしました。

そして、英語科の時間も授業でシンガポールの物価や買い物の仕方、NHK for School の動画も使用しましたが、それを見てとても意識を高めました。旅行で使うフレーズ、現地で使える英語のこともすごく

勉強して、自分のことを紹介する「My 推し」。自分の好きな事を英語で話し答えられるようにしましょうということで、イングリッシュチャレンジの時の自己紹介の文を作成しました。

その他にこれはもちろん教員もやらなければいけないのですが、事前の手続きについて。まず保護者会は 2 回開いております。前年度、1 度 2 月に開いていて、実施近くなってから 4 月の半ば過ぎにもう一度開きました。

本校は今年 6 月 2 日から出発しまして、港区全体の学校の 2 番目というとても早い時期に行きました。トラベルドア（海外渡航手続き）の期限 80 日前よりも少ない日程でギリギリの手続きとなりました。そういう手続きを 2～3 ヶ月ほど前に行います。

そして「CAN EAT 登録期限」。アレルギーのことですね。日本とまた違う食材も出ますので、アレルギーにはとても気を使いました。オイスターソースがダメとか、ナッツがダメ、エビカニがダメということ。甲殻類など割とそういうものが海外のお料理に出ますので、その登録をして絶対にそういうものは食べないように、座席も決めて、料理も別にして徹底していただきました。

そして健康状態のヒアリングシート。持ち込みの薬なども申請しないといけません。それを 3 月中、前年度で行います。ただし SG アライバルカード（入国事前登録）は出発前の 2 日間しかできませんので、うちは 6 月 2 日出発でしたので、5 月 31 日と 6 月 1 日の 2 日間で行わなければならないということでした。

大体手続きはこうして前年度に行うんですが、教員については人事が 4 月ちょっと前に発表となりますので、4 月から転勤してくる教員もいるんですよ。今年度も 4 月から転勤してきた人が 3 年の副担任になりましたので、すぐに聞きました。「パスポート持ってる？」「持ってない」「じゃあすぐ手続きして」ということで、ギリギリ間に合いました。そんなことで教員のことはどうしても 4 月にならないと動けないところがありますが、できる範囲のことは早め早めに手続きが行いました。

6. 海外修学旅行 三田中学校の行程

では次に、これが三田中学校の海外修学旅行の行程です。先ほどご紹介した港区全体の一般的な行程と大きくは変わらないんですが、1 日目は羽田からシンガポールチャンギ空港へ行きまして、市内観光マリーナバレー。360 度パノラマのような広くとてもきれいなところです。名所が一杯で景色がとてもよかったです。そしてそのころはもう夕方を過ぎていきますので、夕食をしてホテルにチェックインという 1 日目です。

2 日目は現地学生と交流して、イングリッシュチャレンジプログラムで班毎、市内観光を回って、最後はマリーオン公園の広場で全員集合です。

事前手続き関係	
旅行日：令和 7 年 6 月 2 日～6 月 6 日	
・第 1 回 保護者説明会	2 月 14 日
・第 2 回 保護者説明会	4 月 19 日
・Travel door(海外渡航手続)期限	3 月 14 日 (80 日前)
・CAN EAT 登録期限	3 月 14 日
・健康状態ヒアリングシート期限	3 月 14 日
・SG アライバルカード(入国事前登録)	5 月 31 日、6 月 1 日

6 海外修学旅行 三田中学校の行程	
1 日目	羽田空港よりシンガポールチャンギ空港へ 市内観光 マリーナバレー 夕食 ホテル到着 チェックイン
2 日目	現地学生と交流 イングリッシュチャレンジプログラム 市内を班で回り、最後はマリーオン公園へ
3 日目	セントーサ島 (セントーサトレイル キーホルダー作り 午後は、ユニバーサルスタジオシンガポールへ
4 日目	シンガポール動物園 (レクチャー、見学) 現地学生とフィールドワーク (ガーデンズバイザベイ) オーチャードロード 夕食後 チャンギ空港へ 夜出発
5 日目	羽田空港へ朝到着 バスにて学校へ

そして3日目はセントーサ島です。セントーサトレイルと海のごみを用いたキーホルダー作りと2つに分かれて行いました。そして午後はユニバーサルスタジオシンガポール（USS）に行きました。

4日目はシンガポール動物園。ここではSDGsのレクチャーをしっかりと受けました。とても大事なレクチャーでした。その後園内を見学させていただいて、現地学生とフィールドワークを実施。ガーデンズバイザベイで「フラワードーム」と「クラウドフォレスト」という2つのコースがあり、どちらかを回るという形で行いました。

その後最後に、オーチャードロードという買い物ができるところに行き、そのまま空港へ向かい夜の出発で日本へ。5日目は帰るだけという形でした。ではここから本校の修学旅行の行程をお話させていただきます。写真が多いので、ちょっと行った気になって見ていただければと思います。

修学旅行1日目 その1

6:15 集合 出発 バスにて羽田空港へ

6:45 搭乗・出国手続き

9:15 シンガポール航空にて
シンガポールチャンギ空港へ
(所要約7時間 日本との時差-1時間)
機内食 1回

15:15 到着・入国手続き

16:30 市内車窓見学
マリーナバレーにて集合写真
360度見渡せるパノラマ眺望



1日目 その2

17:30 夕食（広東料理）

19:20 ホテルチェックイン
⇒開校式、入浴など

21:20 オンライン会議
(女子と男子で分けて会議)

22:00 就寝



シンガポール航空に乗って6～7時間、機内食も取りました。空港に到着、入国手続きをして市内の車窓見学、マリーナバレーに行って集合写真を撮りました。集合写真は写真屋さんの同行が難しいので教員が撮りました。その日の夕食は広東料理です。楽しく食べました。みんな本当に嬉しそうで写真撮るととても喜んで、ジャスミンティーで乾杯していましたね。そしてホテルにチェックインして開校式。部屋に入り、入浴してからオンラインで班長会をして22時就寝しました。

そして2日目。3日間朝食をこのホテルで取らせていただいたんですが、朝食が素晴らしいんですね。普通の食事でも素晴らしいんですが、やはり中華料理なので割と似たような感じなんですが、朝食はビュッフェで好きなものを選べるのが良かったです。校長の間でも朝食が一番美味しかったねなんて言っています。一つの例を写真に撮らせていただきました。

修学旅行2日目 その1

6:30 起床

7:00 朝食（ビュッフェ）

9:00 ツアーデスク前にて諸注意
現地学生と合流
イングリッシュチャレンジプログラム
班単位でスカベンジャーハント
市内観光（アラブストリート、
チャイナタウン リトルインディア）

12:00頃 フードコートにて昼食



9時にツアーデスク前に集合し諸注意を行い現地学生と合流してよいよ活動が始まります。班単位のスカベンジャーハントを行います。この日のお昼はフードコートで好きな料理を取るような形になりました。

まずスカベンジャーハント。これは皆さんの資料には載っていないんですが、旅行会社が作ってくれたサンプルワークシートで、例えばここに書いてある漢字が示す意味は何でしょう？。この寺院の名前は何でしょう？とか。この後出てきますが、今コナンがすごく流行っているんですよ、名探偵コナンが。その壁面に描かれているところで「その前でグループ写真を撮りましょう」と全部英語で書かれていて、それ

が理解できないとそのミッションがクリアできないんですね。そういったミッションを行ってクイズに答えるという全部で3枚の素晴らしいワークシートで勉強をさせていただきました。



2日目に私が回った場所の写真です。アラブストリートのサルタンモスクですね。モスクの中ですから、とても神聖な雰囲気でした。短パンやノースリーブとかだとやっぱりダメなんですよ。ですからこの写真で女子が長いスカート穿いているのがありますが、これは貸し出し用なんですね。なるべく肌が見えないような服で回るようになっていきます。

そして割と壁画が多いんですよ。これ、人に見えるところも実は壁画なんです。真ん中のところなんかは人が座ってるように見えますし、お茶を高いところから降り注いでるように入れているんですがこれも壁画です。それで実際に同じように入れていただいてミルクティーを飲みました。とても美味しかったです。紅茶はシンガポールのお土産として有名です。やはりイギリスの占領下にありましたので、イギリスの文化が入っているんだなと思いました。その他色々雑貨屋など異国情緒あふれるお店が多かったです。



次はリトルインディアです。ちょっと見えにくいんですが、駅の名前「小印度（インド）」って書いてあるんですね。そのままリトルインディアです。色々な寺院がありました。お花が何かハワイのレイのようになっていますが、向こうの文化で寺院でそれをロープとか紐のようなもので繋いで捧げるそうです。

リトルインディアに「テッカセンター」というスーパーマーケット、雑貨センターがあります。色々な生鮮食品が売っていましたが、「ハラム」と「ハラール」というのがありまして、宗教の関係で食べていいものと食べてはいけないものを分けて、通路を挟んで右側と左側にスーパーがあるんです。こっちは食べちゃいけないもの、こっちは食べていいものとすごく厳密に行っていました。

そしてこの日は、先ほども触れましたが「フナンモール（フードコート）」というところで自分たちで注文してお昼を食べました。これも去年の反省で、全部用意された決まった食事を取らずに自分たちで選んで注文して食べる機会をもっと多くしようということにして、今回2回機会を設けました。その1回目です。去年は冷房が効かないところで食べた



のですが、今回は建物の中で涼しい思いをして食べることができました。

リトルインディアとアラブストリートとチャイナタウンを回る順番はグループによって違います。私は午後チャイナタウンを回りました。

ここも大きな寺院あったり、ちょっとした百貨店のようなお店があったりします。「このお店は？」って書いたんですけど、「星」「巴」「克」って書いてあるんですが分かりますか？ちょっと周りをよく見るとヒントがあるんですが、このお店は「スターバックス」なんです。中国語でこういう風に言うんだなと思いました。これもスカベンジャーハントの中のミッションにありました。

そして一緒に回った先生に、コナンの壁画が見つかったのでちょっと同じ格好をしてもらって、写真を撮りました。ここはコナンの映画でシンガポールが舞台となり壁画が描かれ名所となっています。



そして夕方近くになって全員マーライオン公園に集まり、アウトドアシアターでイングリッシュチャレンジプログラムを終了しました。色々な問題やミッションがあったんですが、20グループの内17グループが満点でした。みんな頑張って英語を理解しながら進んだんだと思います。ここでも集合写真を撮りました。お決まりの口をあけた写真も載せましたが、大体みんなこういう格好をしますね。自分で飲んでいるみたいに遠近感を利用して。それから小さいマーライオンが大きいマーライオンのそばにありますが、見逃す人もいるかなと思って写真撮らせてもらいました。



この日の夕食は「ニョニャ料理」という、中華とマレーの料理の両方の文化が融合したお料理です。両方の文化が融合していると言いながらも、結局私にとっては中華料理だったなと思うんですけども、それなりに美味しかったです。

その日の夜、私が自分の部屋に戻りましてのが夜8時半を過ぎていたんですが、昼間のように明るいですよ。逆に次の日の朝の6時半はまだ深夜のようでした。この辺がちょっとやはり日本と違うんだなと思いました。この写真ですが、部屋のタオルでウサギが作られていて、その上に素敵なお花が飾ってあったんですね。校長だからこんなサービスして



くれたのかなと。たどたどしい日本語のお手紙もあって、一生懸命書いてくださったお部屋の担当の人だと思いました。聞いたら、このフロアの生徒たちの部屋にも全てあって、サービスしてくださったんだなと思って嬉しく思いました。

3日目です。朝食を食べてセントーサ島に行きました。セントーサトレイルまたは、アップサイクルワークショップでキーホルダーを作るプログラムです。



私はトレイルだったんですが、この写真の手の上の小さい芋虫みたいなもの、これが鳥の餌で人間も食べられると言われてみんなで食べた虫なんです。食べてみたら意外と美味しかったです。何かちょっとタンパク質っぽい味がしました。トレイルでは密林を進んでいく話や色々な鳥の声とかを聞かせていただきました。

そして午後はケーブルカーを使っていよいよユニバーサルスタジオシンガポールに行きました。生徒たちはこれが一番の楽しみだったのかもしれませんが、すごくいい思い出ができました。



ここでも全員で集合写真を撮りました。そして20ドル(約2,500円)のミールクーポンをもらいました。でもハンバーガーとポテトのセットだけでも17ドルぐらいしてしまうんですね。それに飲み物で5,5ドルぐらいして。だから2、3ドルは自分で持ち出さないと食べられないんですが、こんなようなファストフードのようなものもいただきました。これも良い思い出です。

そして乗り物ですね。私、去年は一つも乗れなかったんですが、今年はちょっとだけ問題行動があった生徒たちがいて、一緒に行動したんですけれども、逆にそのお蔭でこの一番怖い乗り物に乗れました。私、怖いの大好きなんです。これ15分待ちだったんですよ。じゃあ、あまり怖くないやつなんてすぐ乗れるのかなと思ったら、逆にそういう方が40分待ちとかで、何か日本と感覚が違うなと思いました。今年は初めて2つのアトラクションに乗ることができました。



そしてまたユニバーサルスタジオシンガポールからフナンモールへ。前日のお昼と同じ場所なんですけど、いろいろな食事をまた自分たちで注文して食べるということを行いました。楽しそうでしたね。

夜ホテルに帰りまして、これは去年も感じていたんですけどリサイクル精神が徹底しているなど。

まず、プラスチックとかビニールとかを使わないんですね。これはコーム、木の櫛ですね。そしてこのアイスの棒みたいに見えますけど、これが爪研ぎ。歯ブラシは木製です。歯ブラシの横にある小さい包みは、練り歯磨きです。私たちは小さなプラスチックみたいな蓋のある容器を思い浮かべますが、紙の中に入っていました。そして木のルームキーですね。周りになるのであるものは全部紙です。写真が無いんですけどシャワーキャップがありました。シャワーキャップも日本だとビニールなんですけれども、これも紙製のようなマスクの生地（不織布）みたいな感じでした。自然に還るということで作っているんだと思います。

ゴミ箱ですが、リサイクルとリサイクルじゃないものと分かれています。紙のゴミはリサイクルかなと思いましたが、紙のちょっとしたメモとかは右側に捨てて、リサイクルと書いている方にはペットボトルとかを入れさせていただきました。真ん中は飲料水用のガラス瓶なんですけれども、水を冷やしてそのまま持ち歩くのではなく、このガラス瓶に入れて冷やした水を自分の水筒とかに移し替えて持つていくために用意されたものです。ガラスもすぐ捨てるのではなく、何度も使うことを意識したのになっていました。

4日目です。ホテル最後の朝です。4日目はこの日も一日活動があるんですが、ホテルにはもう帰りませんので、ここでパスポートがあるかなどチェックをしながらバスに乗車させました。大体こうやってスーツケースを開かなきゃいけない生徒がいるんですよ。こんなチェックを済ませてから出発してシンガポール動物園に向かいました。



バスに乗った時、スコールのようなものが降ったんですよ。着いたらもう上がっていたんですけども、ものすごい湿度で写真撮ったらこんな感じになりました。そして下の真ん中の写真はちょっと見えにくいんですが、昔ながらの扇風機のようなものが付いていて、これがあると涼しかったです。

そしてSDGsレクチャー。これも本当は時間をかけて行いたかったものです。とにかく徹底したリサイクルで残菜を一つも出さない。動物の餌の残りや皮は全部肥料にする。ち



よっと日本では嫌なイニシャル「G」の虫や、ちっちゃいミミズのようなものも一杯出てきて、それが早送りになって、どんどん肥料にしていく様子も映りましたけれども、そうやって全部無駄なく使っているという徹底したリサイクル精神、サステナブルな持続可能な環境っていうのを意識していると思いました。

動物園は「トラム」という路面電車に乗って一周できるんですが、なかなか広いんですよ。ちょっと時間が無くて奥まで行けなかったのが残念だったんですけども、色々な動物が自然に近い形でいます。あまり檻とかなくて「Open Zoo」がコンセプトで自然に近い環境です。



私が唯一自分のために買ったお土産が扇子なんです。これすごくしっかりしたもので、少しだけディスカウントしていたので買ったんです。それでまだ行っていない先生に校長会の時に私これ買ったんだって言ったら、「それ実踏の時みんなもらいましたよ」って言われてすごいショックでした。

4 日目の午後ですね。動物園を出発してから昼食を取りました。チキンライスです。これもシンガポールの有名な料理なのですが、日本でいうケチャップライスではなくて、白いご飯にチキンがのっているというものです。これもとてもみんな美味しそうに食べていました。



午後からは、ガーデンズバイザベイでクラウドフォレストに行ったグループとフラワードームに行ったグループがあるんですけども、クラウドフォレストではちょうど、ジュラシックワールドとのコラボをしていました。私はフラワードームの方に行きました。すごく綺麗で草間彌生さんの作った作品がオブジェとして立っていました。草間彌生さんはシンガポールで大変有名らしいんです。個展とか展示会が開かれると沢山の方がいらっしゃるそうです。



そしてその後、オーチャードロードで買い物をしました。庶民的小店もたくさんあるんですけども、有名なブランドのお店、ルイヴィトンやプラダやエルメス、グッチ、バーバリーなんかもありました。日本でいう銀座みたいだなと思いました。

そしてインペリアルハーバルというところで最後の食事。チリクラブという辛い蟹料理です。辛いと言ってもそこまで辛くないので、生徒たちにはちょうどよかったみたいです。



最後の食事をいただいて、この後チャンギ空港に向かいました。ここでお別れの会とか、お世話になった添乗員さんたちにもお礼を言って帰りました。航空機に搭乗したのがこの時点で23時頃です。照明が少し落ちていて寝る感じになっています。それで就寝になってしばらくして本格的に寝に入った頃に夕食となります。さっきチリクラブを食べたのに豚の角煮みたいなおかずが出ました。24時から25時ぐらいにいただきました。



そして日本に帰ってきましたが、予定より早く5時過ぎに着いて羽田空港で手続きをしてバスで学校まで向かいました。港区ですから羽田から割と近いのですぐ着きました。早く着いてしまっって登校した1、2年生と重なってしまうなんてこともありました。そんなことで3泊5日修学旅行を終えることができました。

本当に素晴らしい修学旅行でした。もっとこうした方がいいとか、贅沢なこと言う人もいますけど、こんなにしてもらってとても文句を言える筋合いじゃないという感じです。

7. 事後指導

そして事後指導です。探究したことをタブレットでまとめて各学級で発表して、その中で選ばれた生徒が学年全体で発表をしました。これは去年のものなのですが、12月にはシンガポール大使館に各学校の生徒2名ずつ代表20人の生徒が訪問し発表をしました。その時の集合写真です。これは港区の教育委員会から提供していただいた各学校の集合写真です。10校分全部あります。





8. 気づいたこと・感じたことのまとめ

では、最後に気づいたこと、感じたことのまとめです。シンガポール動物園の残菜ゼロ。昆虫を使って残菜を分解して全部肥料にするという無駄のない活動。それからガーデンズバイザベイでの雨水の有効活用。大きな象徴的な形のものがありますが、あの中には太陽光パネルもあり全て再生可能エネルギーにしています。マリーナバレーの雨水貯留施設。これも太陽光パネルがあります。先ほどのホテルのアメニティなんかも紙や木の素材なので、ゴミが出ないよう徹底したリサイクルが行われています。マーライオンから出る水も淡水なんだそうですね。海水を淡水化してニューウォーターとして飲めるようになっておりました。

最初に言いましたが人が資源、国民が財産ということで、天然資源に乏しいため、人的資源が重要な資源、英語が公用語、世界レベルの大学教育、外資系企業の誘致とすごく発展しています。税金がすごく安いので、有名な富裕層の人たちが海外からいっぱい来るのでますます発展していくというところがあります。ちょっと日本も真似して欲しいと思います。そんな色々なことが考えられた素晴らしい国家になっています。

自然の中の都市国家（シティ イン ネイチャー）ということで、新たな土地を開発するときは屋上庭園等でそこにあった自然以上の緑化を実現しないと開発は許可されないんだそうです。ちゃんとやれば政府から助成があるということで、景観の開発にもものすごくお金をかけています。こんな小さな国なのにアメリカの6倍かけているとのこと。

そして規則の厳しさ。これも割と有名ですが、まず公共の場所での飲酒、喫煙は全てダメです。ゴミのポイ捨て、ガムの持ち込み、ガムは持っていきだけでもダメです。横断歩道以外での道路横断、鳩の餌やり、公共の場所での唾吐き、そして蚊の発生を助長する行為。バケツに水入れっぱなしなんてダメなんでしょうね。それから家の中を裸で歩くこと。これは家の中を歩いているのを近隣の人が見かけて通報されたら罰金だそうです。国旗掲揚はやたらにはいけない。掲揚していい時があるらしいんですね。

8 気づいたこと・感じたことのまとめ

○ 環境や資源維持の取組

SG動物園での残菜ゼロ（昆虫を使って残菜を分解し肥料へ）
 ガーデンスバイザベイ 雨水等有効活用 再生可能エネルギー導入
 マリーナバレー 雨水貯留施設 太陽光発電パネル設置
 ホテルのアメニティ（木、紙素材）、リサイクルの徹底
 マーライオンから出る水（淡水・海水を淡水化）NewWater

○ 人が資源（国民が財産）

天然資源に乏しいため、人的資源が重要な資源 英語が公用語
 世界レベルの大学教育 外資系企業の誘致 相続税を設けない

まとめ その2

○ 自然の中の都市国家（シティインネイチャー）

新たな土地を開発するときは、屋上庭園等でそこにあった自然を上回る緑化を実現しなくてはならない・・・政府より助成あり
 景観の開発に年間2億SGドル（国家予算の0.6%）割いている



まとめ その3

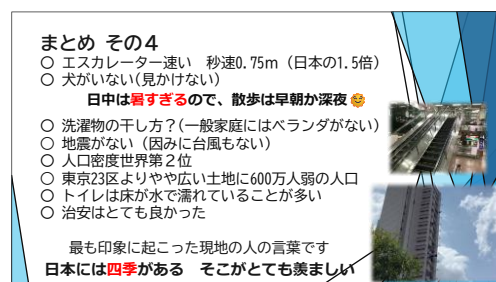
○ 規則が厳しい

- ・公共の場所（交通機関含む）での飲酒や喫煙
- ・ゴミのポイ捨て
- ・ガムの持ち込み
- ・横断歩道以外での道路横断
- ・鳩の餌やり
- ・公共の場所での唾吐き
- ・蚊の発生を助長する行為
- ・家の中を裸で歩く
- ・国旗掲揚（掲揚可能期間外）



すごく色々なことを行っていますけれども、国民の安全とか、安心ということを踏まえた規則になっているということを強く感じました。

ちょっと気づいたことですが、エスカレーターがすごく速いです。調べたら日本の 1.5 倍だそうです。私は急いでいる時本当はいけないんですけどエスカレーターで歩きたくなってしまうんですがシンガポールだったら歩く必要ないなと思いました。それから去年と今年、全部で 10 日間行ったんですけど、犬を 1 匹も見ませんでした。「犬いないんですか？」とか聞いたら日中暑すぎるので、散歩は早朝か深夜だけとのことで犬に会わなかったようです。犬はいます。



まとめ その4
○ エスカレーター速い 秒速0.75m (日本の1.5倍)
○ 犬がない(見かけない)
日中は暑すぎるので、散歩は早朝か深夜
○ 洗濯物の干し方? (一般家庭にはベランダがない)
○ 地震がない (因みに台風もない)
○ 人口密度世界第2位
○ 東京23区よりやや広い土地に600万人弱の人口
○ トイレは床が水で濡れていることが多い
○ 治安はとても良かった

最も印象に残った現地の人の言葉です
日本には四季がある そこがとても羨ましい

それから洗濯物の干し方。マンションなんですけど、竿が長く突き出ているんですよ垂直に。そこに洗濯物を干していて、日本とは違う干し方をしているんですけど、まず地震がないので、こういう干し方をしても危険ではないということです。それから台風も無いんだそうです。

人口密度は世界で第2位。東京 23 区よりやや広い土地に 600 万人弱の人口。

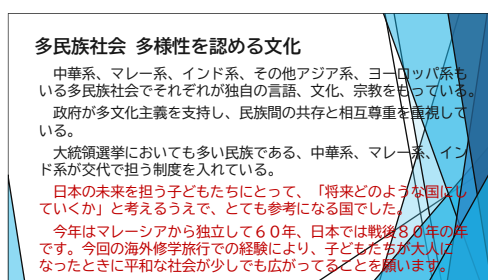
トイレがちょっと汚かったのが難でしたが、シャワートイレみたいに自分でシャワーを持って洗うので濡れるのだなと思いました。今年はそういうびしょ濡れのところを歩くことは無かったです。

治安はとても良くて、生徒が USS で財布を無くしたんですけども返ってきました。中身も全部入っていました。素晴らしいなと思いました。

そして最も印象に残った現地の人の言葉ですが、この国は素晴らしい国だけど、とにかく暑い。日本は四季があって暑い時も、寒い時も、涼しい時もある。それがとても羨ましいとおっしゃっていました。

そんなことで日本の良さも改めて分かりましたけれど、シンガポールのすごく磨かれた点を強く感じました。

多民族多様性を認める文化ということで、中華系、マレー系、インド系、その他のアジア系、ヨーロッパ系もいる多民族社会の中で、独自の言語、文化、宗教を持っています。文化とか宗教が違うと言ったら、それがきっかけで戦争とか起こりかねない国なのにそれがなく、政府が多文化主義を支持して民族間の共存と相互尊重を重視しているという国でした。



多民族社会 多様性を認める文化
中華系、マレー系、インド系、その他アジア系、ヨーロッパ系もいる多民族社会でそれぞれが独自の言語、文化、宗教をもっている。政府が多文化主義を支持し、民族間の共存と相互尊重を重視している。
大統領選挙においても多い民族である、中華系、マレー系、インド系が交代で担う制度を入れている。
日本の未来を担う子どもたちにとって、「将来どのような国にしていきたいか」と考えるうえで、とても参考になる国でした。
今年はマレーシアから独立して60年、日本では戦後80年の年です。今回の海外修学旅行での経験により、子どもたちが大人になったときに平和な社会が少しでも広がっていることを願います。

大統領選挙も多い民族である中華系、マレー系、インド系が交代で担う制度を取り入れており、そこでも争いが起きないようにしているそうです。日本の未来を担う子供にとっては、日本の国をどのような国にしたいか考える上でとても参考になる本当にシンガポール良い国でした。

今年はシンガポールがマレーシアから独立して 60 年、日本では戦後 80 年の年になるということで、今回の海外修学旅行での経験が子供たちが大人になった時に、平和な社会が少しでも広がっていることを願いたいと思います。

そして最後に、この素晴らしい海外修学旅行ですが、多くの学び、豊かな経験を生徒たちに培わせていただきましたシンガポールへの修学旅行を決定してくれた港区教育委員会に大変感謝いたします。

皆さん、今後もし海外修学旅行を行われるようなことがあれば、今日の発表が何かの参考になれば幸いに思います。どうもありがとうございました。

【司会】

上原先生、素晴らしいご発表ありがとうございました。上原先生には今しばらく壇上にお残りいただきまして、本日このご発表に際して、事前にご質問をいただいております。出来る範囲で結構ですので、お答えいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

まず、学校からです。さいたま市立与野西中学校の内田敬校長先生から御質問いただいております。内田先生、よろしくお願いいたします。

【内田先生】

上原先生、今日は本当に貴重な修学旅行のご発表ありがとうございました。一言で言うと本当に羨ましい限りです。先生の語り口、もう楽しくてしょうがなかったというのがひしひしと伝わってきました。



その中でも、ちょっとお聞きしたいのは、私も校長ですのでやはりその楽しい修学旅行を作り上げる裏側ということで一つ伺います。今、旅行方面を変えることは、さいたま市でも話題になっています。シンガポールに変わった時の先生方の受け止めについて聞きたいなと思います。先生によっては新しいことに対して後ろ向き、やっぱり今までの修学旅行の方がいいというような、そういう雰囲気とか。そういう先生方にはどのように対応していたのか。

そしてもう一つ、今回シンガポール修学旅行を実際に行ってみて先生方が一番苦労したこと、そういうことを教えていただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【上原先生】

はい。港区 10 校の内の 1 校ですので、私の答えが全てではないかもしれませんが、まず修学旅行がシンガポールになったという時に、教員はすごく動揺していました。嬉しいんです。ただ嬉しさの反面、期間も長いし、海外に生徒を連れて行くことへの責任も伴うし心配なことが多かったと思います。ただ動揺しながらも喜んでいる教員が本校は比較的多かったです。



私が区の教育研究会の中で、他の人たちに話すと「何で?!」「やだ!」っていう学校もありました。そこの校長先生大変だなんて思いましたけれども、本校はせっかくの機会を港区が、こういう理由を得て決定してくれたことを貴重と受け止めて、そこを大事にしていこうっていうことで、割とすんなり入ったんです。

私はもし他校のような教員が本校にいましたら、やはり最初に決まった経緯、国際化の港区だし、英語を使う機会を多くしたいし、将来のことを考えて多文化共生社会や SDG s のことなど、やっぱりプラスに

なることがいっぱいあること。ましてお金をこんなに港区が負担してくれるということで、教員が前向きになるように説得をすると思います。

そして実際に行って心配だったことはやはり、外国ですから食べ物のアレルギーがとても心配でした。命に関わるので。アレルギーのことで絶対ミスがないようにしていかなければいけないと思いました。そして健康面です。暑い国ですから体調崩す子も多いので、医療関係がどうか。ラッフルズ病院という病院がありますが、昼間は日本人の医師がいるんですが、夜中だったらどうしようとか、そこはとても心配しました。水をとにかく多く持って行って、熱中症にならないように体調管理に気を使いました。幸いひどくなるほどの生徒はいなかったというのが良かったです。健康問題と特にアレルギーのこととかを大変心配いたしました。

教員は、行ったあと「やっぱり疲れた、5日間は長いよ」と言う人もいました。心配なことも多かったですし、海外ということでより責任を感じていました。ただ当校の教員は往々にして楽しむところは楽しむ、ただし責任を持って十分配慮しなければいけないところは配慮するというので取り組んでいました。

よその区の人達が「港区いいな」と言ったらいいんですよね。そうしたら今回経験した先生方は「いや、実際に指導したり準備したりしている時は地獄だよ」って言っていたそうです。でも総合すると良いところが多かったのではないかなと思います。

【司会】

はい、ありがとうございました。ご質問いただきました内田先生もありがとうございました。では次に旅行会社から、近畿日本ツーリスト株式会社東京第1教育旅行支店支店長米田龍太郎様からご質問をいただいております。米田様、よろしくお願いいたします。

【KNT 米田氏】

今回は公立の中学校の海外修学旅行ということで、非常に珍しく、また貴重なお話を伺いました。本当にありがとうございました。

生徒さんにとって家族旅行とは違った旅行、ましてや海外の修学旅行ということで、特に学校様の方でご注意、ご留意された点があれば教えていただければと思います。

【上原先生】

これは海外でなくてもそうなんですが、修学旅行のような集団で行動することというのは、日常なら許されることも許されないんですね。予定を急に変更することも許されませんし、時間とか行動面はとても制約があります。ですから、そこはすごく口を酸っぱくして言いました。

他の人の部屋に行くなんて楽しいじゃないですか。だけど絶対にダメだと。それでも行こうとする生徒はいましたけれども、集団で来ている、まして海外なんだよということ、プライベートの旅行とは違う、とても制約がある旅行だということは行く前からすごく話をしていました。

【KNT 米田氏】

もう1点だけよろしいでしょうか。国内と海外と一番違った点というのはどういったところだったんでしょうか。



【上原先生】

やはり先ほどトラベルドアとかアライバルカードの手続きの話をしましたが、そういうのは国内では無いですね。手続きを各自でやるので、ちゃんと出来るか緊張しました。自分もそうですし、生徒は場合によっては家の人と一緒に手続きしないとできないというところもありましたので、その手続きはとても心配しました。



あと薬も何でも持っていったいいわけではないので、自分の持病の薬とかそういうのも前もっての手続きで許可を取って持ち込みということなので、そのところはとても配慮いたしました。

【司会】

はい。ご質問いただきました米田様、ありがとうございました。

質疑応答につきましては、以上で終了とさせていただきます。上原先生、ありがとうございました。それでは皆様、上原先生に今一度盛大な拍手をお願いいたします。ありがとうございました。



【対 談】

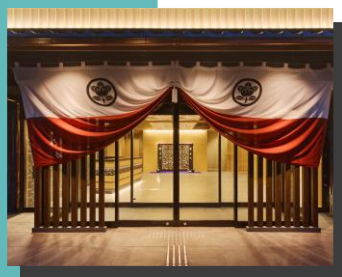
「安全・安心の修学旅行を目指して

—食物アレルギー対応の情報共有—

安全・安心の 修学旅行を 目指して

食物アレルギー対応の
情報共有

ホテル杉長 杉原 光信



ホテル杉長

代表取締役社長 杉原 光信 氏

《登壇者紹介》



杉原 光信（すぎはら みつのぶ）氏

京都府京都市出身。1995（平成7）年大学卒業後、東急観光株式会社（現・東武トップツアーズ株式会社）に入社。京都支店に配属され5年間一般企業、京都市内小中学校への営業、添乗業務を担当する。

2000（平成12）年に退職後は、株式会社ホテル杉長にて専務として家業である旅館業務に携わる。受入れ施設側、旅行会社側の双方を経験した視点を活かし、現在まで約25年間学生団体を主客として旅館営業を行ってきた。2018（平成30）年、株式会社ホテル杉長代表取締役社長に就任。現在に至る。

【岡田】



皆様、改めましてこんにちは。お暑い中、本日はご参加いただきまして大変ありがとうございます。それでは、これから対談に入ってまいります。ご紹介をいただきました全修協の岡田でございます。聞き手ということで、本日ご登壇いただきました杉原様から様々なご提案、情報等のご提供いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、杉原様についてご紹介いたします。お手元の黄色い冊子にプロフィールが簡単に記載されておりますのでそちらをご覧くださいと思います。

杉原光信様、京都市のご出身でございまして、大学をご卒業後一旦、昔の東急観光ですね、現在の東武トップツアーズにご入社されて京都支店に配属。そちらで営業、添乗業務を担当されていたということでございます。2000年に退職されて、家業であります「ホテル杉長」に専務として入られ、もう既に25年間旅館営業を行ってこられました。2018年に代表取締役社長にご就任されておられます。

杉原様におかれましては、今回本研究大会の趣旨を十分ご理解いただきまして、大変ご多用中にも関わらずご登壇いただいております。ここからはご本人様からご自分、それから家業であるホテル杉長のご紹介も含めまして自己紹介をお願いいたします。

【杉原社長】

はい、では皆さま改めましてこんにちは。ただいまご紹介をいただきました株式会社ホテル杉長の杉原でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

お話の前に先立ちまして、皆さまにご報告とお詫びがございまして。先月、私どもの経営するホテル杉長で食中毒を発生させていただきました。大切な生徒様をお預かりしているにも関わらず、関係者の皆様、当該学校の生徒様に大変なご迷惑とご心配をお掛けいたしましたことを改めて心よりお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。今後は二度とこのようなことを起こさないよう再発防止策を施し、また一から皆様にご信頼いただけますよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



さて、私どもホテル杉長が開業した1966年は、高度経済成長期かつ就学児童が多かったこともあり、たくさんの学校、生徒の皆様方にご宿泊をいただきました。開業当初から教育旅行のお客様をお迎えして、年間4万人から5万人泊程度、60年近く営業しておりますので、延べ200万人泊以上の皆様にご宿泊をしていただきました。

2005年から始めた食事のメニュー「すき焼きのお肉食べ放題」は大変好評をいただいております。毎年、「ホテル杉長ビーフアワード」としてコンテストを行い、たくさんお肉を召し上がっていただいた学校様にはトロフィーと賞状を渡させていただいております。

また、老朽化耐震設備の更新のため、教育旅行にとって使いやすい旅館をコンセプトとして新築工事を行い、3年前に新しいホテル杉長として再オープンし、現在に至ります。

時代が変わり、お客様のニーズが変わり、受け入れさせていただいている私たち旅館、ホテルも随分と変化してまいりました。そしてコロナ禍やオーバーツーリズム、気候変動などによって社会情勢も大きく変わってきた中、昨年度の第41回大会でご議論いただいたたくさんのテーマには強い関心を持っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

□現在の修学旅行が抱える課題

【岡田】

ありがとうございました。それでは、これから杉原社長には様々な情報提供等お話しいただきますが、その前に本日この「安全・安心の修学旅行を目指して―食物アレルギー対応の情報共有―」というテーマを選ばせていた過程を簡単にご説明申し上げます。

冒頭の全修協報告でも触れさせていただきましたが、昨年度の第41回大会でコロナ禍を経て今、修学旅行はどんな問題、課題を抱えているのかということについて学校関係者、受入施設、そして私共で討論会を行いました。様々なご意見がありましたが、その中で現在の修学旅行が抱えている主な課題として上がったものがこちらになります。



現在の修学旅行が抱える課題		〇〇〇〇表
【前41回大会での抽出課題】		
1.	旅行代金の高騰	
2.	気候変動	
3.	オーバーツーリズムによる研修行程の円滑な実施に影響	
4.	旅行会社の疲弊、受入れ機関の疲弊	
5.	安全・安心確保の為、更に厳しさを増す諸対応への要求 (代表例:食物アレルギー対応の更なる多様化、複雑化)	
		2

まずは①旅行代金の高騰。貸し切りバス、タクシー代等高くなっています。JR運賃は値上げにはなっていませんが、特急料金の閑散期割引が無くなりました。そして今日もそうですが、②気候変動。特に猛暑といったものもあります。それから、あまり使いたくはないんですが③オーバーツーリズム。特に社長がおいでになる京都市内は大変な混み様という現状があります。一部の地域・場所という情報もあります。

また、コロナが与えた観光業への影響による④旅行会社、宿泊施設等受入れ機関の疲弊ということがあります。旅行会社は、最近また人も増やしてそういった人員的なものも活性化を図っていただいている最中かと思いますが、3、4年に及んだコロナでかなり疲弊されたという事実もございました。

そして⑤安全・安心確保のため、さらに厳しさを増す諸対応への要求ということでございます。この代表例として食物アレルギーの対応。今に始まったことではありませんが、さらに対応が多様化、複雑化しており長年非常に苦しんでいる大きな課題でございます。

この①番から④番はなかなかすぐに解決できません。場合によっては国や様々な行政の施策も必要とするようなことでございます。ということで、本日はこの5番目、食物アレルギーの対応というものにスポットを当てて掘り下げることにいたしました。

また、修学旅行というのは学校単独では成し得ない教育プログラムでございます。学校、そして保護者、生徒の皆さん、各受入機関の皆様、旅行会社の皆様の緻密な協業によって、安全安心な修学旅行がやっと実施可能となるものです。その点についても社長には触れてお話をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

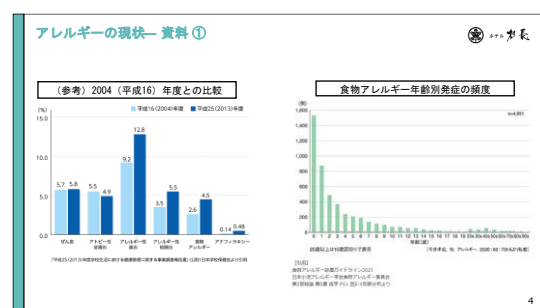
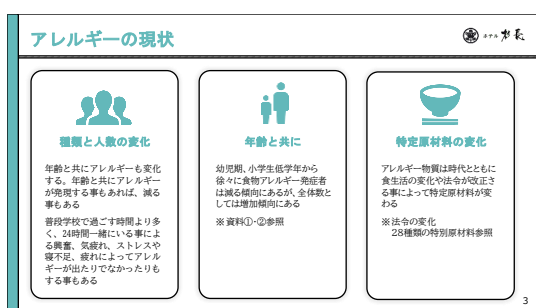
それでは最初に、その食物アレルギーの対応の現状や、現在社長がお悩みになっておられることなどをお聞かせいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

□アレルギーの現状

【杉原社長】

はい。ではまず最初に、アレルギーの現状として現在の悩み事、問題点からご説明させていただきます。

アレルギーは時代、年齢と共に変化してまいります。お子さんがお生まれになってから皆様アレルギーを調べられて、おおよそ 15 歳頃までには、ほぼご自分の持つアレルギーは把握されるかと思います。ただし、新しくアレルギーが発現することもあります。この図のように、6 歳から 15 歳頃までは発症件数は減っておりますが、毎年新規アレルギーが発現していることがお分かりいただけるかと思います。また、左側の資料、食物アレルギーの欄をご覧くださいますと、2004 年には全体の 2.6% だったものが、2013 年には 4.5% と約 1.5 倍程度に増えていることがお分かりいただけるかと思います。私たちが体感的に最近アレルギーをお持ちの生徒さんが増えてこられたなと実感をしているところです。



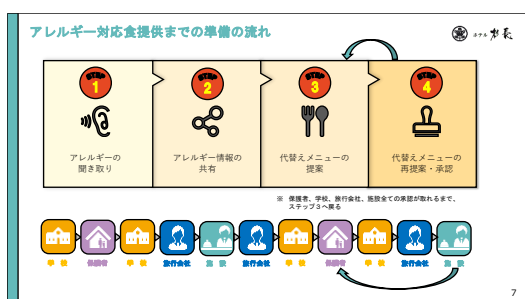
次に、特定原材料についてですが、アレルギーは法令によって指定されている原材料があり、大きく分けて 2 種類ございます。

「特定原材料 8 品目」。卵や乳や小麦など、この 8 品目は必ず表示をしなければならないアレルギー物質です。そして、「特定原材料に準ずる 20 品目」ということで表示が推奨されるアレルギー物質として、アーモンドやアワビ、イカ、イクラなど 20 種類の品目が指定されており、あわせて特定原材料 28 品目、これが現在法令によって定められております。ですが、この法令も年によって改正されることがございますので、注意が必要となっております。



卵、牛乳、小麦が全体のアレルギーの約 6 割程度を占めています。この 3 品目を除去した食事メニューは味付けが難しく工夫が必要で、代替食のコストが上がる原因となることが多い原材料となっております。

□アレルギー対応食提供までの準備の流れ



続きまして、アレルギー対応食提供までの流れに移らせていただきます。

アレルギー対応食を提供するまでには、お食事を安全に生徒さんに提供するため、先生方、保護者、旅行会社、旅館・ホテルの間で入念な確認と準備が必要です。主に 4 つのステップからなります。①アレルギー情報を聞き取り、②その情報を共

有し、③代替メニューの提案をする。そして問題がないかどうか確認をしていただいて、④最終的に承認をしていただく。このフローのように、左から右へ、例えば保護者から先生、旅行会社、旅館・ホテルへと情報が伝達され、そしてまた反対に旅館・ホテルから旅行会社、先生、保護者の皆さんへと伝言ゲームのように共有しているのが現状です。この途中に転記ミスや、伝達ミス、勘違いが起こる可能性があります。

□アレルギー対応食 悩み事と問題点

このような流れで準備する中で、悩みごと、問題点は次のようなものがあります。まず、個人情報の取り扱いです。

アレルギー対応食 悩み事と問題点

- ☑ 個人情報の取り扱い
- ☑ 個室（保健室など）1人1部屋での食事を希望
- ☑ 実施面において学校、旅行会社、受入施設の間で簡単に連絡出来るようになった為、細かい質問や要望がバラバラに上がって来る

アレルギー対応食 悩み事と問題点

- ☑ アレルギー全体の人数が増える事による、原材料費、工数の増加による人件費の上昇
- ☑ 特定原材料28品目以外のアレルギー物質の増加
詳細な情報が必要 → 例：トマト、青魚など
宗教上の理由による代替え食提供も増加
- ☑ 好き嫌いとはアレルギーの区別
- ☑ アレルギー情報の共有に時間がかかる

最近は個人情報の取り扱いが大変厳しくなっておりましました。生徒の皆様の宿泊情報であったり、アレルギー情報であったり、また来年からはマイナンバーカード、これを病院で提示する必要があります。

このように大変慎重な取り扱いが求められますので、どうしても我々旅館・ホテルは個人情報を先生方から集めさせていただく必要があります。個室での食事を希望される場合があります。心のケアや生活指導のために個室をご希望されますが、一人1部屋の個室はやはり部屋数の問題もあり、対応に限界があるのが現状でございます。

また打ち合わせにおいては、先生方、旅行会社、各旅館・ホテルの間でメールなどを使って連絡できるようになったために、細かい質問や要望がバラバラと上がってくることがございます。これも出来ましたらまとめてご要望していただけると助かります。どうぞご理解、ご協力をお願いいたします。

アレルギー全体の人数が増えることによって、原材料費、人件費、アレルギー食提供のための工数が増加します。

先程の2013年度のアレルギーの割合は全体の4.5%程度でございました。例えば年間3万人泊宿泊されますと、1,350人分のアレルギー食の提供となります。数が少ない間は原価的に何とか吸収をさせていただいておりましたが、人数の増加に伴って利益を圧迫する要因となっております。

また、特定原材料28品目に止まらず、アレルギーの種類が増える傾向にあります。最近多いのは、トマト、キュウリやメロン、青魚などといったものが急増しています。そして、対象となるアレルギー物質によってはさらに詳しい情報が必要となります。例えば卵アレルギーの場合、生卵を使用しているマヨネーズは食べられるのかどうか。トンカツの衣やハンバーグのつなぎに使う程度の少量であれば食べても大丈夫



なのかどうか。または卵の完全除去が必要なのかどうかなど。こういった場合は、調理器具の洗浄や調理場所、提供方法の確認も行う必要がありますので、直接保護者の方に連絡をする場合もございます。真空パックで冷凍した食材を送ってこられることもありますので、やはりいち早く詳しい情報をいただきたいと思います。

最近では宗教的な理由で食べられない食材も増えてまいりました。牛や豚肉を除去するだけではなく、出汁や調味料などといった成分の確認もしなければなりません。ハラル認証が必要な場合もありますので、これに関しても注意が必要となります。

次に、好き嫌いとアレルギーの区別についてです。好き嫌いの対応を是とした場合、対応人数が大きく増えて誤食の原因となる可能性がありますので、現在、残念ながら教育旅行ではご要望にお応えできておりません。あくまでも宿泊者の皆様の申告で代替食を提供しています。保護者、生徒の皆様、学校の先生方、旅館・ホテルの間で信頼関係のもと成り立っているところでございます。

最後に、他の旅館・ホテルからも一番多かった問題点でございます。アレルギー情報を共有し、確認できるまでに大変時間がかかることや、そもそも情報がなかなか上がってこないといった問題です。

余裕を持った情報共有が人為的なミス減らすことに繋がります。先生方、大変お忙しいというのはよく分かります。また、旅行会社の方も添乗、添乗でなかなか時間が取れないのも大変よく分かりますけれども、このミスを防ぐために少しでも早い情報共有を是非ともよろしくお願いいたします。

余裕を持った情報共有が
人為的なミスを防ぐ事にも繋がる

先生方が大変忙しいのは良く分かりますし、
営業員の方がシーズンに入ると添乗、添乗で
なかなか時間が取れないのも分かりますが、
少しでもミスを防ぐためには是非とも一層力をお願いいたします。

□提供した食事の最終確認

こうした問題点に対応しながら、旅館・ホテルからは生徒様お一人お一人に代替食の提案をいたします。提案した代替食を保護者、学校の先生方、旅行会社全ての方から OK をいただければ、当日までの準備が完了となります。

これでようやく当日生徒様をお迎えできることとなりますが、最後に重要な確認がございます。提供した食事の最終確認ということで、当日各席のアレルギー対応食が間違いなく提供されているかどうかを、学校の先生方、旅行会社、旅館・ホテルで必ず確認をしていただきたいと思います。そして、ご本人が当日指定された席に座っておられることを必ず確認をしてください。

提供した食事の最終確認

- ☑ 当日、各席のアレルギー対応食が間違いなく提供されているかを、学校、旅行会社、受入施設が確認する。
- ☑ 本人が必ず指定の席に着座しているか確認。

当日のこの二点が重要で、ミスを発見できる最後のチャンスです！

当日はこの2点が重要で、ミスを発見できる最後のチャンスとなりますので、是非ともご協力よろしくお願いいたします。こうしてようやく当日、ご本人に食事を召し上がっていただくことができます。

□もし、誤食が発生したら

では、もし誤食が発生したら。残念ながら誤食と言うのは100%無くすことは大変難しいことです。如何にして誤食を減らすか、また万が一に誤食が起こった場合にどのようにリカバリーをするか。例えば消防訓練などと同じように、普段から緊急時の対応を周知共有して、いかに冷静に対応するかが大切でございます。ではベストな対応とはどういうことなんでしょうか。

もし誤食が発生したら

- ☑ 緊急性の高い症状の確認
- ☑ 症状の確認と経過観察
- ☑ 原因物質の特定
- ☑ 症状の緩和
- ☑ 医療機関への搬送
- ☑ 再発防止
- ☑ 情報共有



13

ベストな対応って？

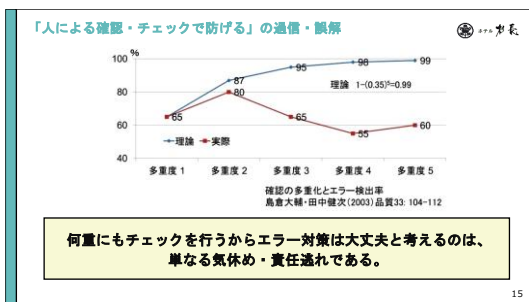
人為的ミスは無くない！

ダブルチェック、トリプルチェックは意味がない？

もし万が一、誤食が発生した場合、
どのようにリカバリーするかが重要
普段から緊急時の対応を周知、共有して冷静に対処

14

まずは人為的なミスは無くないという認識を共有していただきたいと思います。誤食を無くすためには、4回、5回、6回と確認する回数を増やせばいいのではないかとと思われるかもしれませんが、何重にもチェックを行うからエラー対策は大丈夫と考えるのは単なる気休め、誤解であるという実験結果がこのグラフです。



トリプルチェックの弊害



後の2人がちゃんと
みてくれるだろう
からヨシ！

1人目が合格にしてるし
3人目も見てくれる
だろうからヨシ！

前の2人が合格に
してるんだから
絶対ヨシ！

16

3回、4回、5回と確認する回数を増やした場合、理論的にはミスは限りなく0に近づいてまいりますが、実際には3回目以降の確認でミスを発見できる可能性は65～55%とおおよそ半分ぐらいで決して高くありません。これは所謂「仕事猫案件」と呼ばれているもので、1人目は「後の二人がちゃんと確認してくれるだろう」、2人目は「1人目が確認して、3人目も確認するから大丈夫だろう」、3人目は「前の二人が確認しているんだから絶対大丈夫」という心理が働いてしまった結果です。

当館ではスタッフだけで最低4回確認をするようにしています。ただし、4回とも同じ方法で確認するのではなく、確認方法を変えています。例えば卵アレルギーで、だし巻きを胡麻豆腐に変更する場合です。1人目は提供するために用意した胡麻豆腐の数を確認します。2人目は変更するために除去した、だし巻きの数を確認します。3人目は胡麻豆腐に変更された実際の現物を確認します。4人目は他のアレルギーを含め、残るであろう全ての食材の数を合わせて確認をするようにしています。

以上がアレルギー対応食ご提供までの流れと現状、問題点でございます。



【岡田】

はい、ありがとうございました。現在の社長が取り組まれているアレルギー対応の現状と問題点のご説明でございました。詳細なご説明ありがとうございました。

コロナ禍に限らず、この食物アレルギー対応というものにつきましては、昔から様々な困難を抱え続けておりますし、その度合いも増してきています。アレルギーの定義、該当生徒の特定、該当品目の特定、そしてそれに対応する対応食の選定と間違いのない提供方法など、完全な対応には多くの課題を抱えていますが、まずは該当生徒、そして該当品目の特定に関する正確で、且つ前広な情報の提供が肝だろうと今までのご説明を聞いていて感じたところです。

杉原社長はその部分におきまして、新たな対応システムの構築を行っておられると聞いております。その取り組みについて、これからまたご説明をいただきたいと思いますが、まずその前提として、今日お集まりいただいた皆様にお伝えしたいことがあるということです。お願いしてよろしいですか。

□私たち受入施設の想い

【杉原社長】

ありがとうございます。学校の先生方からは様々なご要望をいただきます。誤食を無くすのは当たり前。他の生徒の皆さんと同じ見た目、器や食事内容で生徒に食べさせたい。温かく美味しい食事を食べさせたい。個人情報保護のため名前性別を第三者に伝えたくない。また、生徒の個人情報は旅館・ホテルであっても漏らすことはできない等々。ですが、アレルギーは個性の一つでございます。何より誤食を防ぐことが大切でございます。

旅館・ホテルによって対応は様々ではありますが、生徒さんの安全と食事を美味しく食べていただきたいこと、誤食リスクの防止や別途かかる費用の捻出など様々な要因がある中で、出来得ることとやりたいことの間に立ちながら最善と思うことを実施しております。

「楽しい思い出をたくさん作ってほしい」食事は重要な要素になります。ですが要望の全てを満たすことが難しいこともございます。学校ごとに対応を変えることができない、全ての学校に同じ対応を行わざるを得ない状況もございます。旅館の同業組合や旅行会社が組織する連盟など、同業者で顔を合わせる時は必ず情報交換を行い、最善の対応方法を模索するなど出来ることは行っているというところでございます。是非とも先生方には、私達も最善を尽くそうとしている、できるだけ美味しく楽しく食事を召し上がってほしい、そのための努力を惜しみなく行っていることをご理解いただきたいと思います。以上でございます。

私たち受入施設の想い

受入施設から学校の皆様への要望

- ご要望の全てを満たす事は難しい
- 学校毎に対応を変えられない、全ての学校に同じ対応となる
(個別食、一括対応食を学校毎には変えられない)
- 出来る事は行っている
(同業組合であったり旅行会社の連盟であったり様々な場所で情報交換をし、最善の方法を模索している)

私達も最善を尽くそうとしております

出来るだけ美味しく楽しく食事を召し上がって頂きたい！

そのための努力を惜しみなく行っている事を

ご承知おきください！！

【畠田】

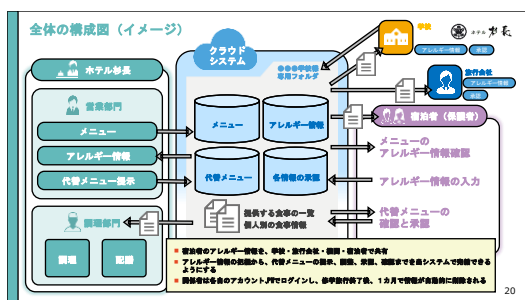
はい、ありがとうございました。それでは引き続きになりますが、現在構築をされているという食物アレルギー対応の新たなシステムにつきましてご説明をお願いいたします。

【杉原社長】

はい、ありがとうございます。前段ではアレルギー食対応の現状とご提供までの流れについてご説明をさせていただきました。いち早く情報共有する、転記ミスや勘違いを減らすことを目的としたクラウド上のシステムを構築しておりますのでご紹介をさせていただきます。

《 教育旅行用 食物アレルギー対応システム 》

□クラウドを使って情報を共有



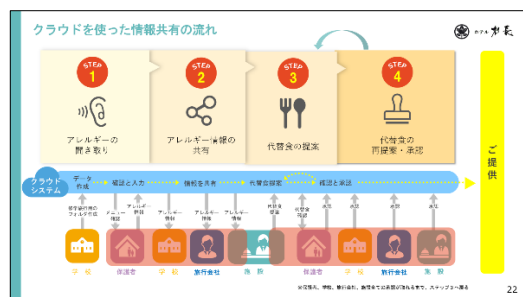
まず、全体構想のイメージでございます。クラウド上にデータの保管用のフォルダを用意して、そこに旅行の情報や宿泊場所、食事のメニュー、個人のアレルギー情報といったものをアップロードして情報を共有することができます。フォルダにはメニュー、アレルギー情報、代替メニューが入っておりますので、これを先生方、保護者、旅行会社、旅館・ホテルでそれぞれ情報を更新したり、同時に共有することができますようにしております。

このシステムの効果といたしましては、アレルギー情報を一元管理し共有することによって、全体的な工数を減らし、人為的なミスや確認に要する時間を削減することによって誤食を減らすことができます。また、代替メニューの提案、決定、確認を保護者と旅館・ホテルで直接連絡をすることができます。変更や承認の履歴が残るので、状況の把握確認が容易にできます。いつ誰がどのような情報内容を決めたのかが分かるようになっています。

また、アレルギーや代替メニューの一覧表のボタンを押せば、その時点で保管されている最新の情報をクラウドから表示をするために、転記ミスや勘違いを減らすことができるなどの効果も見込むことができます。

□クラウドを使った情報共有の流れ

基本的な対応の流れは、現在の個別食対応と同じく 4 つのステップで進めてまいります。①アレルギーの聞き取り、②



その情報の共有、③旅館・ホテルから代替食の提案をし、④先生方、保護者、旅行会社、旅館・ホテルで承認をするという同じ流れでございます。

しかし、このシステムを使いますと、クラウド上のフォルダで保護者、先生方、旅行会社、旅館・ホテルから常に並行して情報を確認共有することができるようになっております。以前のフローと比べていただきますと、従来の方法では、左から右へ学校、保護者、旅行会社、旅館・ホテルへと順番に伝言ゲームのように情報を共有していたものが、一度に共有できるようになるということがご理解いただけると思います。

□アレルギー対応システムの流れ（学校側視点）

先生方に実施していただきたいことをまとめさせていただきました。

まず、先生方には、旅行会社へ旅行のアカウントを作成するための依頼を上げていただきます。そして、アカウントが作成されましたらログインをしていただき、①食事のメニューを決めていただきたいと思います。食事のメニューが決まりましたら、②アレルギー対応が必要な生徒さんに QR コードや URL を配布していただき、アレルギー情報の登録をするように連絡をしていただきます。③保護者の方から、すべてのアレルギー情報と旅館・ホテルから代替メニューが出そろいましたら、内容の確認をお願いいたします。④全員のアレルギーと代替メニューを確認をしていただき最後に承認ボタンを押していただく。以上4点が旅行前、先生方に実施していただきたいことでございます。これらの作業は全てクラウド上のフォルダに入っておりますので、いつでも確認をしていただくことができます。

「旅行アカウント」の作成

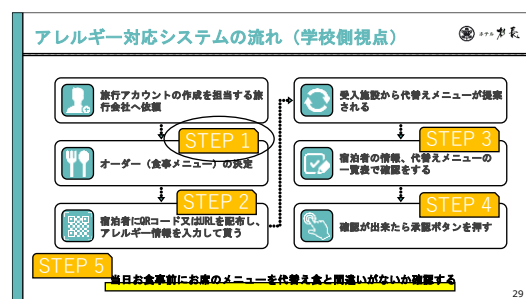
まず、旅行アカウントの作成のために担当する旅行会社へ依頼をしていただきます。お申し込みフォームに必要な事項として、学校名、旅行会社、人数、旅行期間といった基本情報を入力をしていただいて旅行会社に送っていただきます。

メールを送っていただきますと、旅行会社の方で基本情報の入力、そして旅行会社の情報や宿泊先の情報、夕食や朝食、昼食などといったそれぞれ利用する機関など詳しい情報を全て登録し旅行アカウント作成をしていただきます。アカウントが登録されますと、登録完了画面が出てまいります。

登録が終わりましたら、先生方にはログインをしていただきます。ログインをしていただきますと、トップページに「行う必要のある作業」という行っていただきたい情報が一覧で表示されるようになります。上から作業をしていただきたい内容が順番に表示されています。

STEP 1：旅行内容の確認とオーダー選択

まず、「旅行の詳細」をクリックしていただくと、先ほど登録をしていただいた旅行内容が詳しく確認をしていただけます。ここで旅行名、人数、連絡先やアレルギー登録用の QR コード、もしくは URL などが確認をしていただけます。ここで訂正がある場合は、更新ボタンを押していただければ、内容の変更もしていただけるようになっております。



次に、「オーダー（食事メニュー）」に進んでいただきますと日毎の食事の選択画面に移動いたします。何月何日の夕食、何月何日の朝食、未決定のメニューは灰色で表示をされておりますので、順番にメニューを決定していただければと思います。

それぞれの日毎のボタンを押していただきますと、このように食事メニューの選択画面へ移動いたします。また、メニューに選択可能なものがあれば、さらに次の選択画面に移動します。選択が終わって決定ボタンを押していただきますと、灰色であったボタンがオレンジ色に変わるようになっています。

STEP 2：宿泊者の登録

全てのメニューが決定されましたら、次にアレルギーのある生徒の皆さんに登録用の QR コードを送っていただきます。その際、例えば旅行 1 か月前であったり、何月何日までという期限を決めて生徒さんに連絡をしていただき、その期限を守るようお願いをいたします。保護者の方からの登録が終了しましたら送られてきた QR コードから会員登録を経て本登録をしていただきます。

保護者の方にはこのようなメールが送られます。このメールからボタンを押していただき、本登録します。自分の名前、ふりがな、クラス、出席番号といったものを入力していただきます。そして、引き続いてアレルギーの登録画面に移ります。特定原材料 28 品目に関しては、ボタンを押していただくと登録ができるようになっています。それ以外にアレルギーがある場合は、記入欄がございますので、そこに手入力で、例えばトマトですとかキュウリといった具合に入力をしていただきますと登録ができるようになっています。

それぞれ登録をしていただきますと、旅館・ホテルから代替メニューの提案が送られてきますので、メニューの確認をお願いいたします。含まれている成分をよく確認をしていただいて、保護者の方に承認ボタンを押していただきます。提案されたメニューに不安や質問がある場合はメッセージを送っていただいて、直接旅館・ホテルの担当者、スタッフと連絡を取っていただくことができます。そして、不安な点を解消していただき承認ボタンを押していただければ、保護者の方の準備は完了となります。

STEP 3：学校・旅行会社・宿泊者・施設共同によるメニューの確認

保護者の皆さんからのアレルギーの登録と旅館・ホテルから代替メニューの登録が出揃いましたら、先生方には次のステップへ進んでいただきます。

宿泊者のアレルギー情報と旅館・ホテルから提案された代替メニューの一覧が表示をされます。生徒氏名、日付ごとのメニュー、そしてあらゆるアレルギーの種類が書いてあります。メニューに対して代替メニューの提案があれば、それぞれの欄に代替メニューが記入されるようになっております。まだ承認されていない項目や、旅館・ホテルから代替メニューが提案されていないような場合は、記入欄が赤や黄色、オレンジなど色分けをされて表示をされるようになっております。

承認の確認が取れていないユーザーには、旅館・ホテル、旅行会社、先生方から承認をお願いしますというメッセージもここから送っていただけるようになっております。必ずアレルギーをお持ちの保護者の皆様には、確認・承認をしていただきますようお願いをしております。全ての皆様に承認をしていただきますと、色の付いた欄がなくなって承認をしていただいたことが一目で分かるようになっております。

STEP 4：最終承認ボタンの押下

全ての確認・承認が済みましたら先生方に最終確認をしていただき、承認ボタンを押していただいて準備は完了となります。

STEP 5：提供した食事の最終確認

これで、ご本人にお食事を召し上がっていただけますけれども、最終的にはお越しをいただいた時に、その席にご本人が必ず座られているかどうか、そして指定されたメニューが間違いなくご提供されているかどうかを必ず先生方と旅行会社と旅館・ホテルのスタッフ 3 者で確認をお願いいたします。

提供した食事の最終確認

- ☒ 当日、各席のアレルギー対応食が間違いなく提供されているかを、学校、旅行会社、受入施設が確認する。
- ☒ 本人が必ず指定の席に着座しているか確認。



43

□データのアップロードとダウンロード

アレルギー対応に関するシステムについての説明は以上になります。その他の機能としてアレルギー以外のデータのアップロード、ダウンロードもしていただけます。他の旅館・ホテルからは、アレルギー情報だけではなく、部屋割りや席割り、館内スケジュールなどの資料もなかなか届かないというご意見も多数いただいております。また先生方からは、メニューの成分表が欲しい。館内の見取り図が欲しいなど、いろいろなご要望もいただきます。このシステムから情報をダウンロードしていただくことも出来るようになっておりますので、合わせてご利用いただければと思います。

データのアップロードとダウンロード

部屋割りや席割り、行程表、メニュー成分表など様々なファイルをクラウドにアップロードして、共有する事ができます。



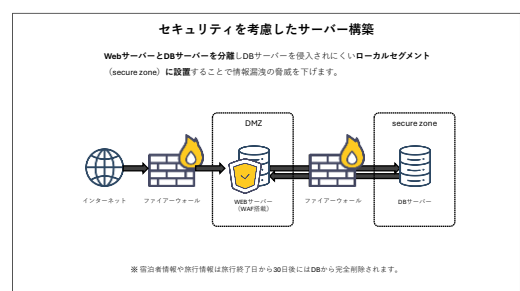
44

□セキュリティを考慮したサーバー構築

では最後に、セキュリティの問題です。データサーバーをローカルのセグメントサーバーに保存することによって、セキュリティを2回通すようにしています。ファイアーウォールというものをデータアクセスするまでに2回通すことによって情報漏えいするリスクを下げるという形をとっております。

また、宿泊者情報、生徒の情報と旅行情報は、旅行が終わってから30日後にはデータベースから完全削除されるようになっておりますのでご安心ください。

以上がアレルギー対応システムの概要でございます。今年の秋以降に当館でご利用のお客様から順番にプレ運用をしていただけるよう準備を進めさせていただいております。プレ運用の中で操作性などを検証した後、皆様にもご案内をさせていただければと考えております。ご興味を持っていただきましたら、是非ともご利用をよろしくお願いいたします。以上でございます。



【岡田】

詳細なご説明ありがとうございました。このようなシステムを使用しまして、学校、保護者、生徒の皆さん、旅行会社、受け入れ施設が情報を正確に共有することがまずは第一であるということ、そして誤食というものを完全に防止しながら、対応したメニューを提供する段階へと進むということになりますね。その対応については、現在どのようなものがあるのでしょうか。

□個別食対応と完全除去食対応

【杉原社長】

はい。アレルギーに対応したお食事の提供方法は大きく分けて2種類ございます。「個別食対応」と「完全除去食対応」の2種類です。当館では、個別食対応で提供させていただいておりますが、それぞれの長所と短所がございますのでご紹介させていただきます。

まず、個別食対応ですが、こちらはお一人様ごとにアレルギーの種類によってメニューを変えてご提供いたします。例えば卵アレルギーの場合は、だし巻きを豚の塩焼き、親子鍋は卵でとじないといった具合に、一人一人個別のメニューをご用意いたします。また、アレルギー物質を含まない料理に関しては、他の生徒の皆さんと同じ内容でご提供いたします。

個別食対応

● 杉原社長

> 個人のアレルギーに合わせてメニューを変更

長所

- アレルギーに応じて細かく対応できる
- 多くの施設が個別食対応している為、情報共有しやすい。
- 個別食は他施設の完全除去食と共存しやすい

短所

- 調理、確認の工数が多く、旅行会社、学校、保護者様に何度も連絡する必要がある
- 誤食の可能性が一定数ある

長所は、それぞれのアレルギーに応じて細かく対応が出来ること。多くの旅館・ホテルが個別食対応をしているため、情報の共有がし易い。そして、完全除去食対応の他の旅館・ホテルがあっても情報共有が容易にできるということでございます。

短所としては、調理、確認の工数が多く、先生方、保護者、旅行会社に何度も連絡する必要があること。そして、工数の増加によるミスや確認漏れなど、一定数の誤食の可能性があるということです。

一方の完全除去食対応とは、一つでもアレルギーをお持ちの場合、特定原材料28品目を全て除去した統一のメニューをご提供する対応です。これは完全に別メニューとなります。

こちらの長所としては、確認に必要な工数を大幅に減らすことが出来ます。このことに伴い誤食を減らすことができます。特定原材料28品目に対するアレルギーがあるかどうかだけを確認すればOKです。

完全除去食対応

● 杉原社長

> 一つでもアレルギーを保持している場合は、特定原材料28品目を除去した食事に変更

長所

- 確認の工数を大幅に減らすことが出来る
(特定原材料28品目のアレルギーがあるかどうかだけ確認すれば良い)
- 工数の減少に伴って、誤食を減らす事が出来る

短所

- 特定原材料28品目以外には対応していない
- 原材料費が高い
- 個別食と完全除去食の施設が混在した場合、学校、旅行会社の工数は同じ
- 食事の見た目、内容が完全に変わる
- 完全除去食であっても、個別で細かい対応が必要

短所としては、特定原材料28品目以外には対応していないこと。そしてこれは1食ごとに真空パックになって送られてきますので、どうしても原材料費が高くなってしまいます。また、個別食対応と完全除去食対応が他の旅館・ホテルと混在した場合、確認に必要な工数は結局個別食と同じになってしまいます。先生方には個別食の対応と同じ工数の確認作業をしていただく必要が出てまいります。

- 54 -



また、食事の見た目内容が完全に変わってしまいます。一目でアレルギー対応食であるというのは分かります。他の生徒さんとは全く変わってまいります。また、28品目の原材料を使っていませんので、味の調整が大変難しいというのが現状でございます。

個別食対応と完全除去食対応どちらが優れているかは、それぞれ長所短所がございますので、各旅館・ホテルそれぞれに応じた最適な提供方法をご判断されているものと承知をしております。以上でございます。

【岡田】

ありがとうございました。食物アレルギー対応を目的とした、情報共有システムの構築につきましては、他の受け入れ施設、それから旅行会社の方でも現在開発に取り組まれているところはあるようです。いずれにしても、繰り返しになりますが正確な情報を関係者全員で正確に共有をして、最後の配膳まで相互確認を行うことが肝になるのではないかとご説明を聞いて感じました。

基本的にこのシステムは生徒の保護者、もしくは保護者に準ずる方から直接正確な情報を得ることになりますので、できる限り前広な情報共有の開始が必要になりますね。

【杉原社長】

そうですね。直接対応させていただけるので、素早い対応はできるんですが、その分全ての保護者の皆様に連絡をしないといけませんので、できるだけお時間はいただきたいところになります。

【岡田】

システムのご説明、そしてその対応方についての貴重なお話大変ありがとうございました。食物アレルギーの対応方につきましては、関係される方々が長年にわたって大変ご苦労されていることであり、特に近年は以前にも増して困難な状況が増しております。とは言え、生徒の大切な命に関わることでありますので、確実な対応が必要になります。本日ご紹介いただきましたシステムなどを有効に活用して、業務の負担軽減を図りつつ、全ての関係する皆様が正確な情報を共有した上で、確実な対応を行うことが必要であるということです。本日のまとめとしまして、最後に杉原社長、お願いしてよろしいですか。

□まとめ

【杉原社長】

はい。ありがとうございます。それでは、まとめとさせていただきます。

修学旅行は学校単独では成し得ない教育活動になります。学校、生徒、保護者様、宿泊輸送関係など各受入機関、そして旅行会社の皆さんの協働により安全安心な修学旅行が実施可能となります。安全安心を確保して、生徒の皆さんに教育的意義の深い貴重な体験の場を今後も提供し続けていきたい。お客様と業者という一般的な関係ではなく、教育旅行を支える仲間、同士として、お互いに現状を共有し、できること、できないことを相互に理解し誠意をもって向き合っていくことが、更なる教育旅行の進化発展に必要なことではないのでしょうか。以上でございます。本日は、長時間にわたりご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。

@@@修学旅行は、学校単独では成し得ない@@@

学校、保護者・生徒の皆様、各受入れ機関（宿泊関係、輸送関係など）

および 旅行会社の“緻密な協働”により、

安心、安全な修学旅行、研修旅行が実施可能となる。

【岡田】

大変ありがとうございました。お時間もそろそろ終了です。本来であれば、会場の皆様との質疑に移りたいところではありますが、お時間の関係もありまして事前にいただいたご質問をいくつかご紹介してお答えしていきたいと思います。

まず、「情報共有に係る本システムの開始時期について望ましい時期は？」というご質問です。先程お話に出ました前広な作業開始が必要とは思いますがいかがでしょう。

【杉原社長】

はい。できるだけ早い時期に共有していただきたいというのはあります。現在、多くの旅館・ホテルでは、1 か月前にはメニューを決めていただいてアレルギーの情報の共有をお願いしております。しかし、やはり遅れてしまうことが多々ございまして、1 週間前、5 日前などになることもございます。また、アレルギー以外の情報、例えば部屋割や館内スケジュールなどは前日になるなんてこともあります。できれば1 ヶ月前を目途に全ての情報を共有していただけると助かります。

特に館内スケジュールなどは、前日に連絡をいただいても、なかなか対応することもできませんし、生徒さんに連絡をするのもお越しになられてからの班長会で連絡をするというようなことになります。当日6時半にまだ食事の用意をしている最中に食堂の前に生徒さんがたくさん来られるということもございました。できましたら全ての情報は1 ヶ月前までには何とか共有をしていただければと思います。

【岡田】

はい。ありがとうございます。学校によっては、新年度になってからクラス替えなどもありなかなか難しいこともあるとは思いますが、行く生徒は変わらないので、アレルギー対応は2 ヶ月前、3 か月前に来るはずですね。なるべく前広の対応をお願いしたいと思います。

もう一つ伺います。個人情報保護。非常に難しいという話でございしますが、これに関する機能はいかがでしょう。先程ご説明いただきましたが、もう一度よろしいでしょうか。

【杉原社長】

はい。基本的には旅行終了日から30 日後にはデータベースから完全に削除されます。

ただどうしても、所謂ハッカーと言われる方々からの攻撃を 100%防ぐことは大変難しいです。セキュリティを上げるとサーバーの維持費用なども跳ね上がってまいります。ですから、必要な情報を必要な期間だけ保管をして、必要がなくなれば削除するという形にしております。もし必要な情報等ございましたら、EXCEL もしくは PDF でダウンロードができますので、予めダウンロードしていただければと思います。以上です。

【岡田】

はい、ありがとうございました。お時間の関係もございますので、予め用意させていただいたご質問は以上です。もし今日ご参加いただいた皆様で、何かこういったこと、詳しいこと、聞きたいことがございましたら、是非私どもの事務局の方にメールもしくはお電話等でお問い合わせいただきたいと思います。

それでは本日、長時間にわたりまして多くの情報をご提供いただきましたホテル杉長代表取締役社長杉原光信様へ皆様盛大な拍手をお願いいたします。本日はありがとうございました。





《 第 42 回 全国修学旅行研究大会 》

参加者数：会場参加者 132 名 オンライン参加者 84 名

情報交換会参加者数：61 名

出展情報ブース：15 団体

第 42 回全国修学旅行研究大会

資料展示団体 一覧

(50 音順)

1	石川県
2	伊勢志摩観光コンベンション機構
3	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
4	オーストラリア・ビクトリア州政府観光局
5	九州での修学旅行事前・事後学習のご案内 (西鉄観光バス)
6	昭 和 館
7	空飛ぶ学び舎ラボ
8	公益社団法人 千葉県観光物産協会
9	東京スカイツリー
10	一般社団法人 東北観光推進機構
11	一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 (農山漁村 DE 探究学習)
12	長崎県
13	一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会
14	2027GREEN×EXPO 協会
15	北海道

第42回 全国修学旅行研究大会

[報 告 書]

2025(令和7)年9月8日

発行 公益財団法人 全国修学旅行研究協会

《本部事務局》〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-6-8
九段南ビル 6 階

Tel 03-5275-6651 Fax 03-5275-6653

《名古屋事務局》〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 2-14-19
住友生命名古屋ビル 6 階

Tel・Fax 052-561-7876

《大阪事務局》〒556-0017 大阪市浪速区湊町 1-4-38
近鉄新難波ビル 7 階

Tel 06-6636-0885 Fax 06-6636-0890

URL <http://shugakuryoko.com/>